

# 春日井市勝川遺跡出土木製品の再検討

樋上昇

春日井市勝川遺跡は濃尾平野東部の庄内川中流域に所在する弥生中期～江戸時代の遺跡である。この遺跡からは弥生中期後葉、弥生後期～古墳前期初頭、5世紀後半、8世紀後半、9世紀後半～10世紀の5時期におよぶ木製品378点が出土している。このうち、既報告分は132点で、残り246点は未報告のまま収蔵されている。この未報告分の木製品のうち、26点を実測し、既報告分の樹種同定結果とあわせて報告した。さらに遺跡の立地、遺構、各時期の器種組成・樹種を検討した結果、弥生中期～5世紀後半の勝川遺跡は集落が営まれた洪積台地上に豊富にあったブナ科主体の広葉樹材を伐採・加工し、他の集落への供給もおこなう、庄内川流域における木材流通の拠点的な性格を担っていたと推定した。

## はじめに

勝川遺跡は、愛知県春日井市勝川町・長塚町および町田町に所在している。

地理的には濃尾平野の東部を北東から南西に流れる庄内川の右岸に位置し、庄内川によって形成された標高約11mの沖積低地と、その北の鳥居松段丘面とよばれる標高約13mの洪積台地縁辺部に立地している(図1)。

1969年から1990年にかけて、春日井市教育委員会、愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査部、そして愛知県埋蔵文化財センターによって発掘調査がおこなわれ、弥生中期から古墳後期にかけての集落跡、奈良～平安時代の古代寺院(勝川廃寺)江戸から明治時代の宿場町など、複数の時代にわたる遺構が確認されている。

すでに春日井市教育委員会から『南東山古墳・南東山遺跡』、『勝川廃寺範囲確認調査概報』1～4次、愛知県教育サービスセンターから『勝川』、『愛知県埋蔵文化財センターから『勝川遺跡』、『勝川遺跡』、『勝川遺跡』、『町田遺跡』が刊行され、上記の調査成果が公表されている。

このうち、沖積低地の苗田地区に位置する571区および62F区からは弥生中期後葉から平安時代にかけての木製品が大量に出土しており、『勝川』と『勝川遺跡』にその実測図が掲載されて

いる。しかし、これらの報告書に取り上げられているのは、実際に出土した木製品の約3分の1にすぎず、約250点の木製品が未だ公表されことなく愛知県埋蔵文化財調査センターの特別収蔵庫に保管されてきた。

1987年に62F区の発掘調査を担当し、1991～2年には『勝川遺跡』の編集・執筆にかかわった筆者にとって、この大量の木製品を何らかのかたちで公表することは重大な責務であると以前より考えてきたが、日々の発掘調査と報告書作成に追われ、再整理の機会がないままに報告書刊行からすでに10年が過ぎた。しかし、平成14年度にようやくセンター本部での勤務の機会を得たため、特別収蔵庫内の勝川遺跡出土木製品について再整理をおこない、未報告分のうち、より重要度の高いとおもわれる木製品26点を図化することができたので、本稿において報告することとした。それとともに、既報告分の樹種同定結果ならびに未報告分の器種名・出土地点・所属時期・法量・樹種などについても一覧表を作成し、文末に掲載することとした。

## 1 勝川遺跡の概要

勝川遺跡は前述のように、濃尾平野東部の庄内川右岸に形成された沖積低地および洪積台地上に立地している。調査の都合上、洪積台地上の西半部を上屋敷地区、東半部を南東山地区、沖積

低地部を苗田地区とよんでいる。また、段丘崖の縁辺部を北東から南西に流れる庄内川支流の地蔵川(現在は河川改修により、庄内川ではなく新川に流れ込む)をはさんだ東側は、町田遺跡と呼称しているが、本来は勝川遺跡と一連の集落として捉えられる。

町田遺跡以東、庄内川までの沖積低地は松河戸遺跡として勝川遺跡群(勝川・町田遺跡)とは区別されている。松河戸遺跡では、縄紋中期・弥生前期・古墳中期の集落、中世の条里地割水田などが確認されている。特に弥生前期の環濠集落は愛知県下でも最大級の規模を誇り、環濠内および居住域を横断する自然流路から多数の木製品が出土している。また、古墳中期前半の標識遺跡として土器様式にその名をとどめている。

勝川遺跡はほぼ弥生中期後葉(高蔵期)に集落の形成が始まり、弥生後期(山中期)から古墳前期初頭(廻間 式前半期)へと継続するが、その後一旦途絶える。5世紀後半から6世紀前半にかけて勝川古墳群を形成し、同時期の居住域も営まれるが、6世紀後半以降、再度断絶する。8世紀前半頃には上屋敷地区に藤原宮同范瓦を有する勝川廃寺が造営され、9世紀後半頃まで存続する。苗田地区では地蔵川の旧流路(NR01)において、8世紀後半頃から断続的に祓の祭祀がおこなわれ、それともなう人形・舟形・墨書土器などの祭祀遺物が出土している。この祭祀行為が断絶するのは10世紀代で、中世には条里型水田が施行されるようになる。

時期区分は『勝川遺跡』に従い、

期：弥生中期後葉、

-1期：弥生後期～古墳前期初頭、

-2期：5世紀後半～6世紀前半、

-1期：7世紀末～8世紀後半、

-2期：9世紀前半～10世紀後半、

とする。

以下、木製品出土地点を中心として各時期の遺構の変遷について簡単に記述をしていく。

## 2 遺構の変遷

### (1) 期

期は、台地上の上屋敷地区東半部に墓域、南東山地区に居住域があり、この居住域は溝で区

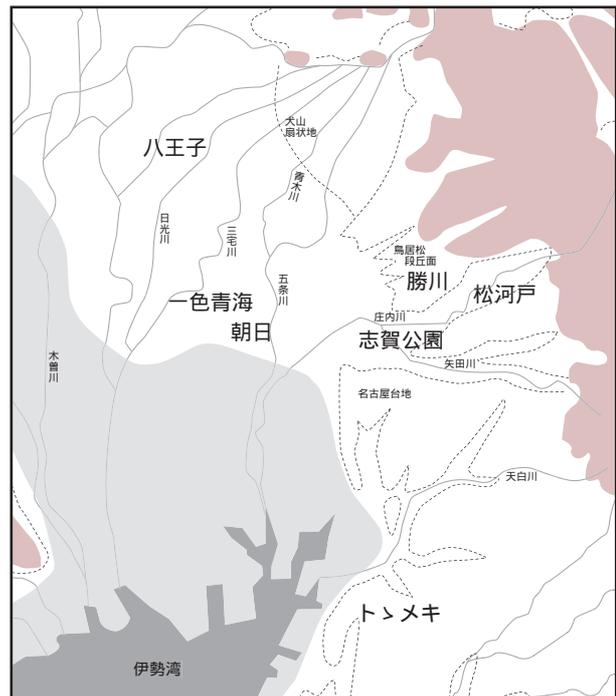


図1 勝川遺跡とその周辺の遺跡

画されるが、居住域全体を囲む環濠となるか否かは不明である。居住域はこのほかに旧・地蔵川(NR01)をはさんだ南側の町田遺跡西端部とさらにその東の町田遺跡中央部にもあり、町田遺跡中央部の居住域には方形周溝墓も数基築造されている(図2)。

台地上に位置する南東山地区の居住域とNR01の間の沖積低地には、段丘崖に沿ってNR01から分流する幅約7mの溝(SD60)があり、その南に掘立柱建物群が展開する。この掘立柱建物群はおおむね4棟1組でコの字状に並び、数度の建て替えが認められる(図3下)。

57I区西半部には2.2m×0.8m程度の長方形の土坑が6基あり、そのうち2基(SK43・47)には長さ約1.8m、幅約50cm、厚さ5～8cmのコウヤマキの板材が5枚、長辺を横にし、短辺を立てた状態で並べて埋納されていた。

62F区SD60西端部付近には洋梨形を呈する土坑(SX01)が溝内に掘削され、その約15m下流には溝とは直交方向に杭が密集して打ち込まれている(SX18)。溝の水流方向は東から西であることから、SX18は水を一定量せき止め、SX01に溜める機能が想定できる(図3上)。

SX01内およびその周辺からは『勝川遺跡』

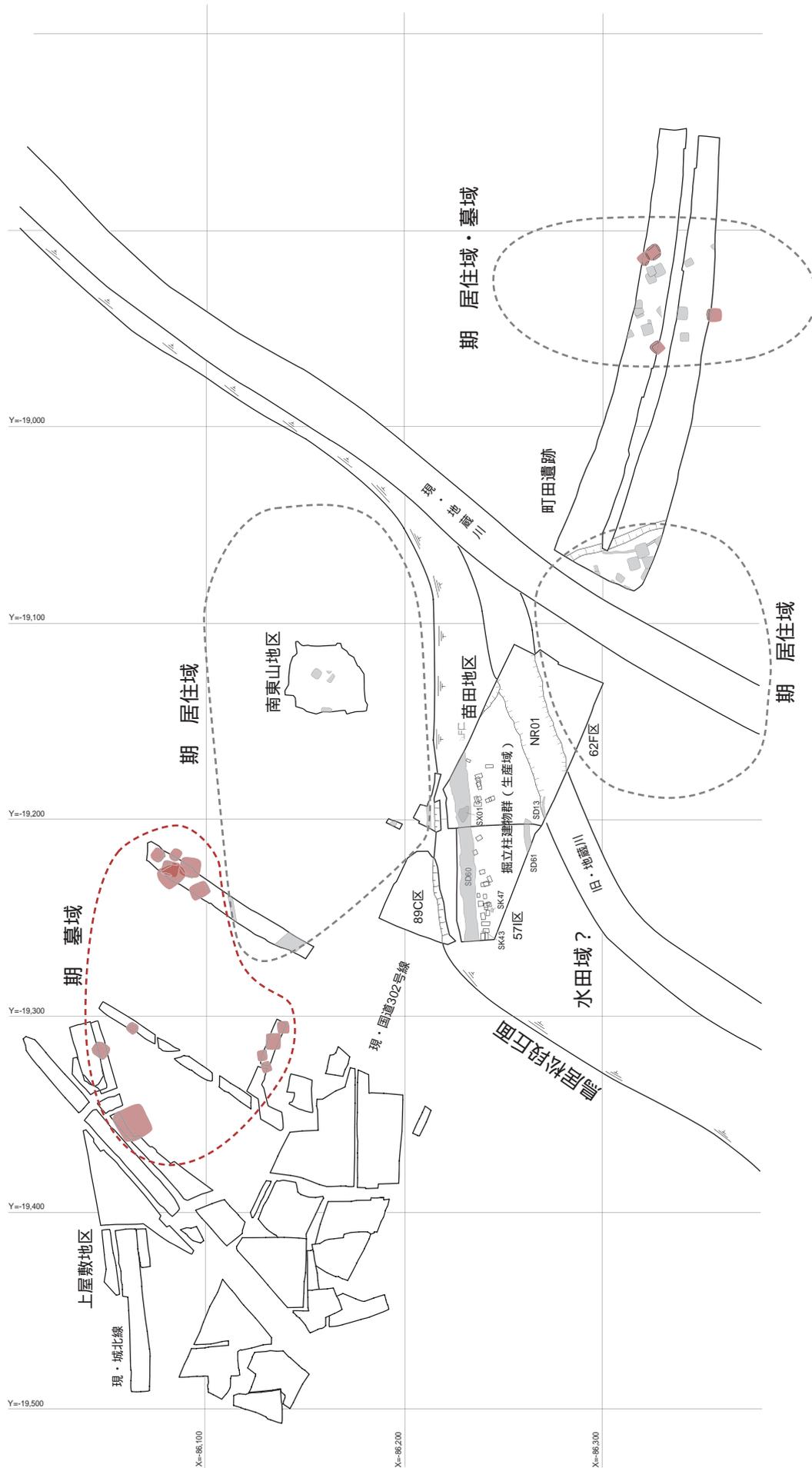


図2 勝川遺跡遺構配置図 ( 期 S=1 : 3,000 )

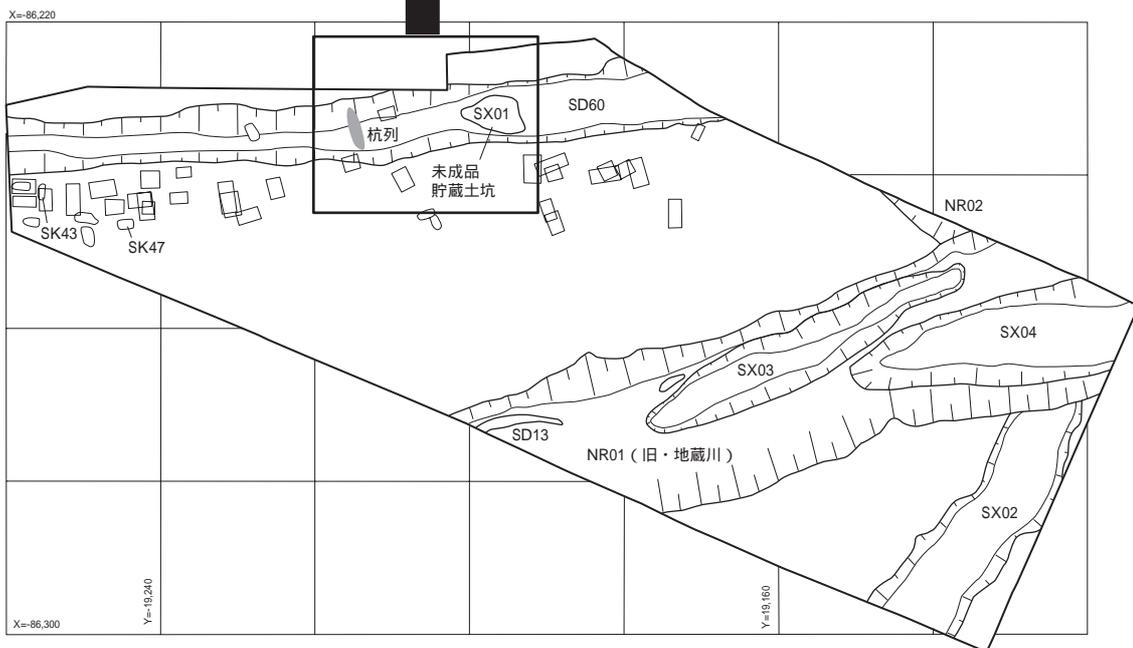
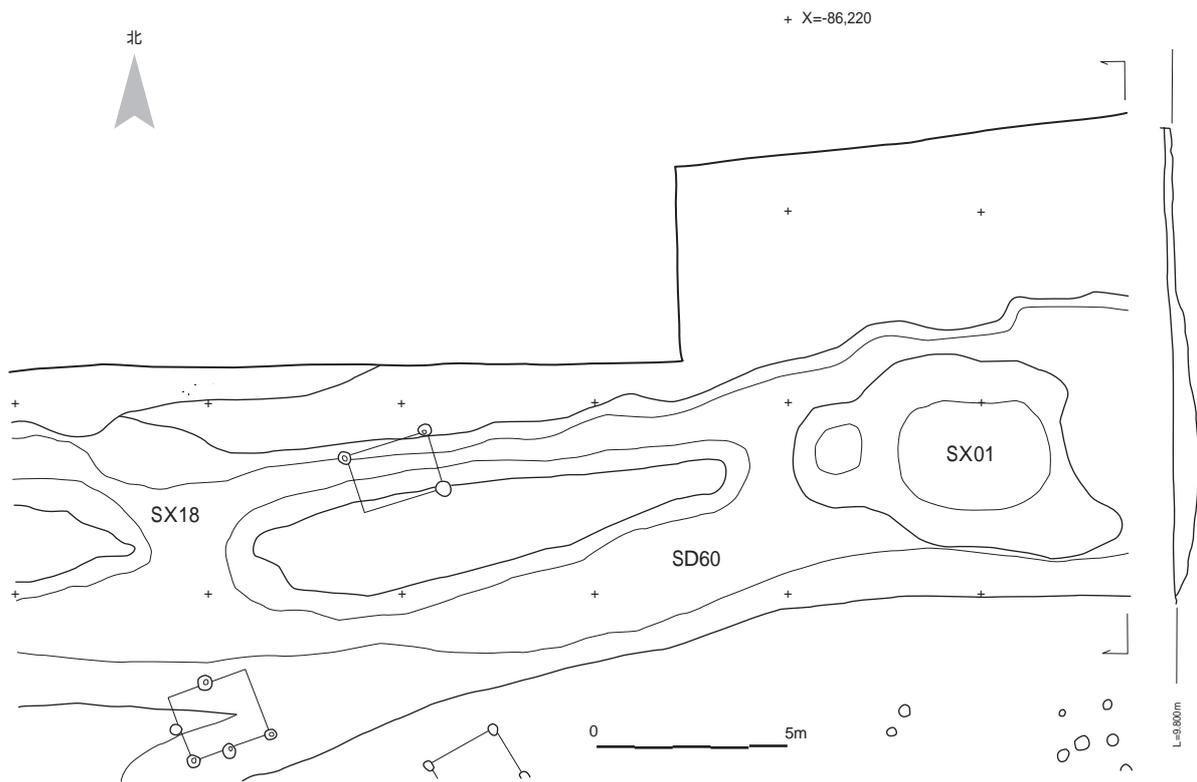


図3 勝川遺跡木製品製作関連施設遺構図 (S=1:1,000)(下) 同・拡大図 (S=1:200)(上)



図4 勝川遺跡遺構配置図 ( 期 S=1 : 3,000 )

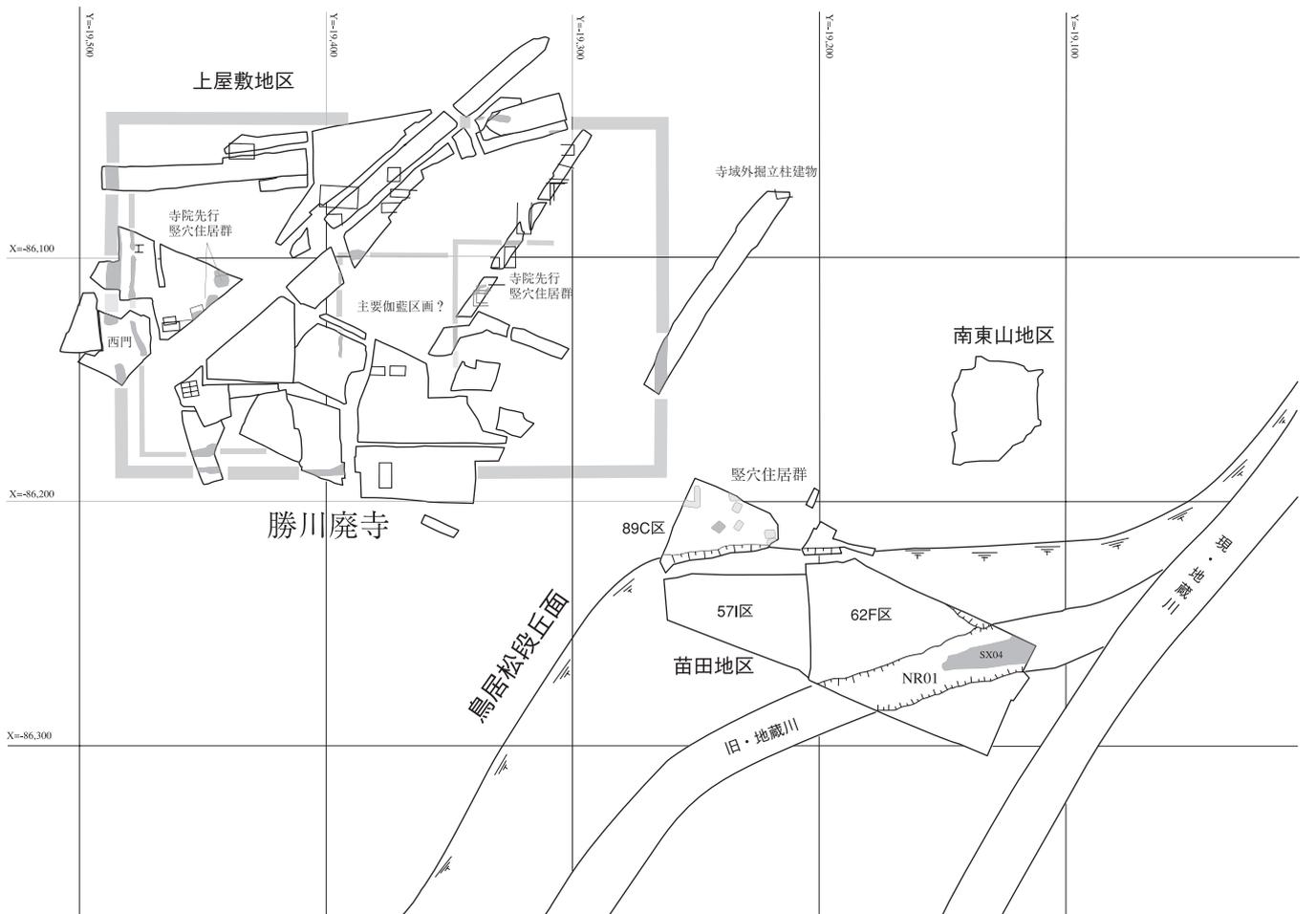


図5 勝川遺跡遺構配置図 ( 期 S=1 : 3,000 )



図6 勝川遺跡 62F 区 NR01 内遺構配置図 (S=1 : 500)

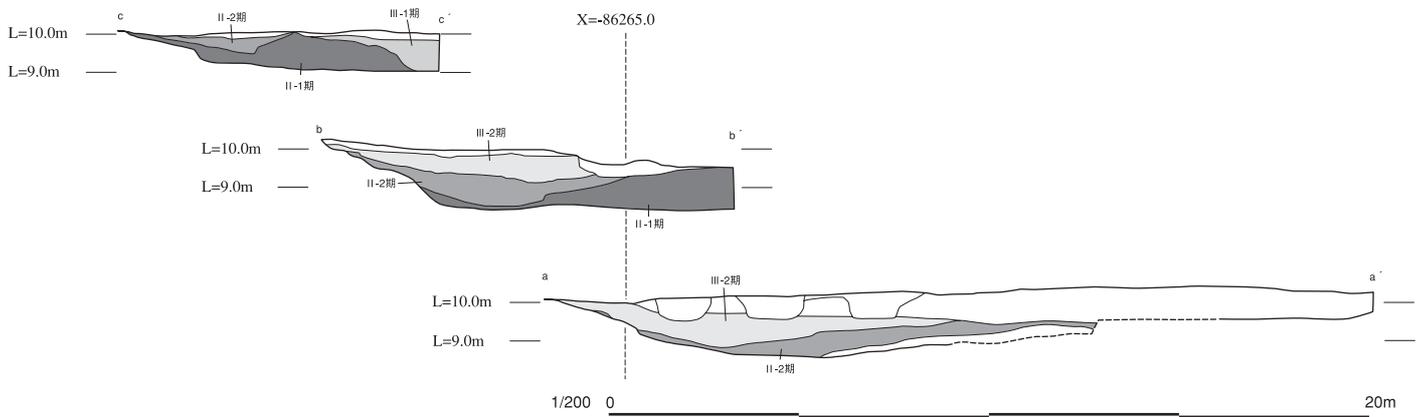


図7 勝川遺跡 62F 区 NR01 土層断面図 (S=1 : 200)

に掲載したような多量の板材や鋤・斧柄・杓子などの未成品とともに、これらを加工するための磨製石斧・砥石が集中して出土していることから、これら一連の遺構群は木製品の製作にかかわる施設である可能性がきわめて高い。前述のSK43・47は、方形周溝墓の埋葬施設に用いる棺材をあらかじめストックしていたものと考えられている（石黒 1984）。

このほか、玉の原材料も数点出土していることから、この苗田地区は木製品を中心とする手工業生産の工房施設としての性格を担っていた。

また、NR01の北岸から西へのびる溝（SD13）も 期に属する。この溝のなかからも若干の木製品と板材が出土している。この溝の先には水田域があった可能性も想定できる。

#### (2) -1 期

-1 期も基本的には 期の集落プランを継承するが、苗田地区のSX01・SD60および掘立柱建物群はNR01からとおもわれる洪水性の堆積により、すでに廃絶している（図4）。

上屋敷地区の墓域は 期よりやや西に移動し、範囲も拡大する。南東山地区の居住域もやや西に広がる（89C区）が、NR01南岸や町田遺跡ではこの時期の竪穴住居を確認することはできない。ただ、NR01南岸において、NR01から南に派生する浅い溝状遺構（SD08）があり、ここからは一木平鋤が出土している。

苗田地区では、62F区NR01の東半部最下層（図6のD区遺物集中地点）およびNR02からこの時期に属する木製品が出土している。共伴している土器は山中式新段階～廻間 式前半で、主体は山中式新段階である。

既報告分の木製品としては、伊勢湾型曲柄平鋤・同二又鋤や、泥除け具、一木平鋤といった掘削具、竪杵・ヨコツチなどの農具、斧柄、剝物容器などがある。

ただし、D区西端付近（遺物一覧表のNR01 D-a）は後述する -2期の溝SX03と重複しており、発掘調査後約15年を経た現在では、この地点から出土した木製品をいずれの時期に所属させればよいか、明確な判断ができない。

また、D区遺物集中地点の南には -1期の溝SX04があり、この境界に位置する数点の木製品（未報告分4941・4932・2537・2530）について

も、いずれの時期に属するのか即断は避け、 -1ないし -1期としておく。

#### (3) -2 期

-2期は、前述のように勝川遺跡周辺に勝川古墳群が形成される時期である。調査区内では、南東山地区に直径約40mの円墳である洲原山古墳（南東山古墳）が築かれる。

また、苗田地区の62F区NR01南岸から町田遺跡西端部の微高地上には推定全長約90mの前方後円墳である勝川大塚古墳が存在したとされる。一部には古墳の存在を否定する意見もあるが、第2次大戦前までは墳丘とおぼしき小山があり、大塚とよばれていたということを筆者は発掘調査に参加された地元の作業員より伺ったことがある。苗田地区および町田遺跡西端付近から多量の須恵質埴輪片が出土していることから、かつてこの地に古墳があった可能性は高い。

このほか、 -1期の墓域内にもこの時期の墳丘墓が4基認められる。居住域は89C区の段丘崖に接して竪穴住居1棟のみを確認しているが、一定の領域をもった集落として機能していたのか否かは不明である。

この時期の木製品は62F区NR01内の北岸に接して掘削された溝SX03から出土している。特にC区の遺物集中地点に集中しているが、一部には -1期のSX04と重複するものもあり、これらについては -2ないし -1期として記述する。

既報告分の木製品には、二連の直柄広鋤未成品・直柄狭鋤・ナスビ形曲柄平鋤・組合せ平鋤などの掘削具、鎌柄・木錘などの農具、彩色を施した桶、剝物容器、机天板、梯子などがある。

#### (4) -1 期

-1期には上屋敷地区に勝川廃寺が造営される。寺域は溝で区画され、東西227m、南北148mをはかる。寺域内にも区画溝があり、いくつかのブロックに分けられている。各区画内では多数の掘立柱建物を確認しているが、塔・金堂・講堂といった主要伽藍は未だ不明である。ただ、「寺」とヘラ描きされた平瓦や、後述する62F区のNR01から9世紀後半に属する「寺」「別院」等の墨書土器の存在から、やはりこの施設は寺院であった可能性が高い。

また、89C区では、寺院と同時期の竪穴住居が1棟あり、さらに寺域内には寺院の造営に先行す

るとみられる竪穴住居群を2ヶ所で確認している。寺域外でも掘立柱建物があり、後述する律令祭祀関連の木製品や白米の荷札木簡が62F区のNR01より出土していることなどから、寺院とは別に官衙的な施設が付近に存在した可能性が高いと筆者は考えている。

苗田地区の62F区では、NR01内に掘削された溝SX04からこの時期の木製品が出土している。既報告分では、馬鍬・大足杵木・ヨコヅチなどの農具類のほかに、人形・舟形といった律令祭祀に関連する木製品が曲物・墨書土器とともに出土している。なかでも荷札木簡を転用した人形は他に例がなく、特に注目される。

これら木製品群と共存する土器はほぼ8世紀後半頃で、このほか、A・B区の遺物集中地点からこの時期の土器が多数出土している。

#### (5) -2期

-2期においても、少なくとも9世紀後半頃までは何らかのかたちで勝川廃寺は維持されていたことが前述の「寺」と書かれた墨書土器の存在からわかっているが、10世紀以降には廃絶している可能性が高い。

89C区ではこの時期4棟の竪穴住居があるが、いずれも9世紀後半頃で、寺院が存続した期間に属し、10世紀以降の居住域の存在は全くわかっていない。

苗田地区62F区では、NR01上層において、C区遺物集中地点を中心に多数の木製品が出土している。既報告分では、白米の荷札木簡、人形、曲物があり、いずれもが9世紀後半頃に属する。なかでも、「楊?」「柚?」という文字がそれぞれに書かれた2点の人形が注目される。前者は胸部に、後者は背部に書かれており、しかも前者の樹種はヤナギ属、後者の樹種はカヤあるいはイチイであることがわかっている。「楊」とはヤナギのことであり、人形に使用樹種名が書かれていたとすれば、いかなる意味をもっていたかは不明だが、きわめて興味深いことといえよう。

このほか、A・B区の遺物集中地点で9世紀前半～10世紀中葉にかけての墨書土器が、B区の遺物集中地点で、9世紀後半と10世紀中葉の墨書土器がそれぞれ出土している。9世紀代は「寺」・「宅北」・「別院」・「井手」など勝川廃寺とその周辺にかかわる施設名が多いのに対し、10

世紀代は「万」・「人万」・「太」・「南生」など人名あるいは吉祥句的な墨書が多くみられるようになる。

### 3 木製品の概説

本章では、今回図化した木製品に対して所属時期ごとに簡単な説明を加える。なお、すべて62F区からの出土である。

#### (1) 期(図8)

1は直柄狭鍬の未成品。未穿孔で、隆起部は不明瞭。『木器集成図録 近畿原始篇(解説)』(奈良国立文化財研究所1993)の狭鍬B式にあたる。クヌギ節の柁目材で、SX01出土。

2は直柄多又鍬。刃部を欠損するが、5本歯である。柄穴は横長の長方形で、隆起部は不明瞭。クヌギ節の柁目材で、SX01出土。

3は用途不明の穿孔小板。図面上の上端は方形で下端は尖り、両側縁がくびれる。上端付近に小孔を穿つ。スギの板目材で、SX01中層出土。

#### (2) -1期(図9・10)

4は泥除け具の下半部。この地域の泥除け具で通常みられる下端中央付近の小孔がないことから、完成間近の製作途上品であった可能性もある。『木器集成図録 近畿原始篇(解説)』の泥除式に属する。アカガシ亜属の柁目材を使用。

5は曲柄鍬の膝柄である。台部の大半と柄部下半を欠損するが、台部付け根の軸部固定用の紐掛け部分が残る。クヌギ節の芯持材を用いる。

6はヨコヅチ。敲打部と柄部に明確な段をもち、全長44.4cm、敲打部長25.1cm、敲打部径10.2cmとかなり大型の部類にはいる。渡辺誠氏の分類ではAないしはBタイプに属する。クリの芯持材を使用。

7は用途不明の有段板。図面上の下端は斜めに面取りを施すが、加工痕が明瞭に残る。ヒノキの板目材を用いる。

8は用途不明の穿孔をもつ小板。図面上の中央には縦方向に4ヶ所、右側約4分の1の位置と右側端部付近にそれぞれ上下2ヶ所小孔を開ける。このうち中央列の下から2番目の孔には目釘とおもわれる木片が残る。左右両側縁には面取りを施す。ヒノキの板目材を使用する。

9は用途不明の穿孔板。図面上の上端は方形

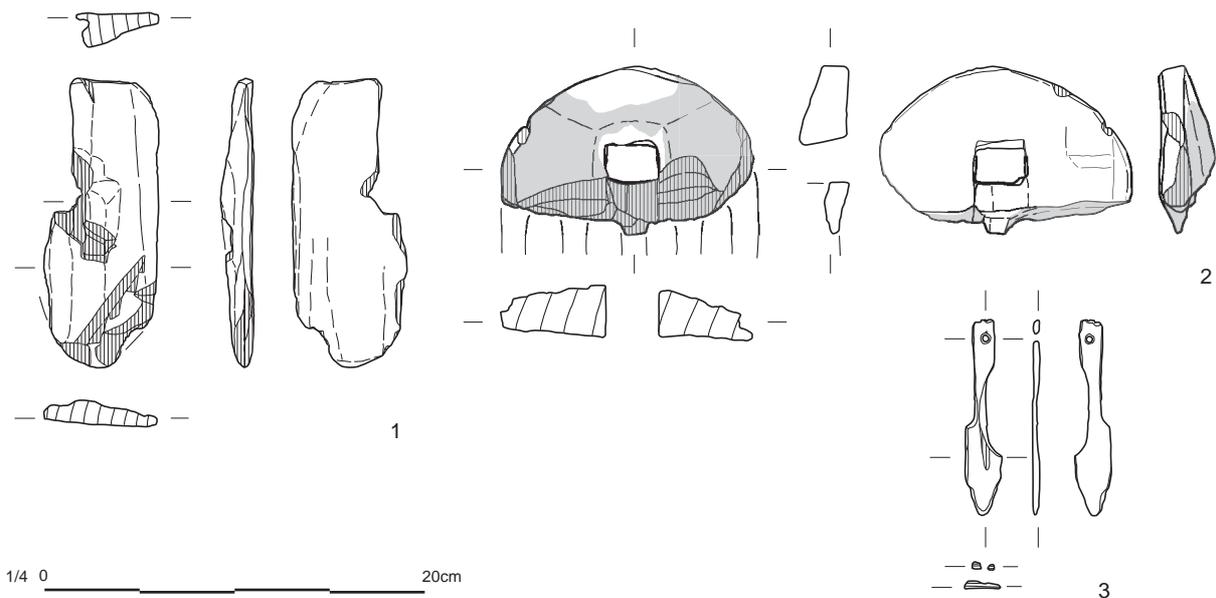


図8 勝川遺跡出土木製品実測図(1) S=1:4

に、下端は円弧を描くように整形する。上半部には片側に寄せて隅丸方形の孔を雑に開ける。ヒノキの板目材を用いる。

なお、この時期の木製品はすべてNR01のD区遺物集中地点からの出土である。

(3) -1or -2期(図10・11)

10は穿孔をもつ小板。長辺片側の両コーナー付近にそれぞれ1ヶ所ずつの小孔を穿つ。短辺川は斜めに面取りを施す。指物箱の側板の可能性はある。ヒノキの追柱目材を使用。

11は梯子で、3段のステップが残る。コナラ節の半裁材を用いる。

12は用途不明の有挾板。図面上の左側は挟りをいれて先端を突起状に残す。右側は一方に寄せて幅1.6cm、長さ2.8cmの突起をつくりだす。機織具の部材の可能性はある。ヒノキ属の板目材を使用する。

いずれもNR01のD区西端から出土で、-1期に属する可能性が高いが、SX03と重複する地点であるため、-2期に下るかもしれない。

(4) -2期(図11・12)

13は大型の槽(剝物容器)で、端部を船の舳先状に尖らせる。平面規模の大きさに対して器高は9.7cmと低い。モミ属の板目材で、NR01のC区遺物集中地点からの出土。

14は梯子でステップ1段分のみ遺存。コナラ節の半裁材を使用し、NR01のC区SX03からの出

土。

15は2ヶ所に方形の穿孔をもつ建築部材。図面上の左側半分近くを別材と結合させるために板状に薄くする。横架材として使用されたと考えられる。段がつかない片面のみ加工痕が明瞭に残る。ヒノキ属の板目材で、NR01のC区遺物集中地点からの出土。

16は用途不明の穿孔有段板。断面はL字状で、2ヶ所別材を組合せるためか突出部を削り取っている。その段がない箇所にはホゾ孔状の切り欠きを設ける。建築部材の可能性はある。ヒノキ属の柱目材で、NR01のC区遺物集中地点からの出土。

17は用途不明の穿孔板。図面上の左側に寄せて方形孔を開け、右側は斜めに削り取る。長辺左側のコーナー付近には片側のみわずかに溝を刻む。ヒノキの柱目材で、NR01のC区遺物集中地点からの出土。

18は平行四辺形を呈する穿孔板。長辺片側のコーナー付近に方形孔をそれぞれ1ヶ所ずつ開ける。ヒノキの柱目材で、NR01のB区東端付近から出土している。出土層位から-2期に属する可能性が高い。

(5) -2or -1期(図11)

19は机の天板で、図面上の左側を欠損する。脚との接合は断面が台形を呈する、いわゆる蟻溝によるホゾ接合のタイプである。全体に薄いつ

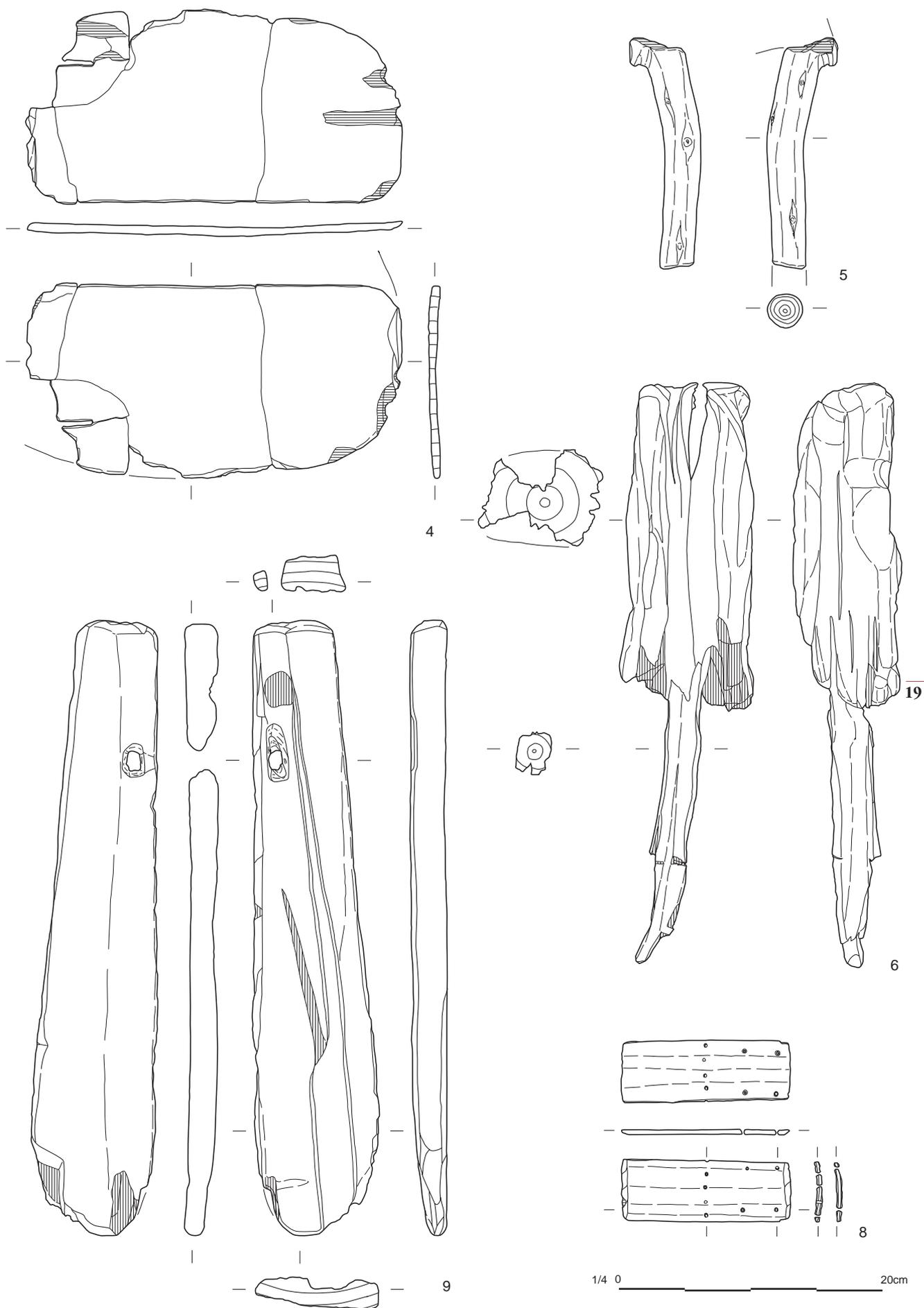


図9 勝川遺跡出土木製品実測図(2) S=1:4

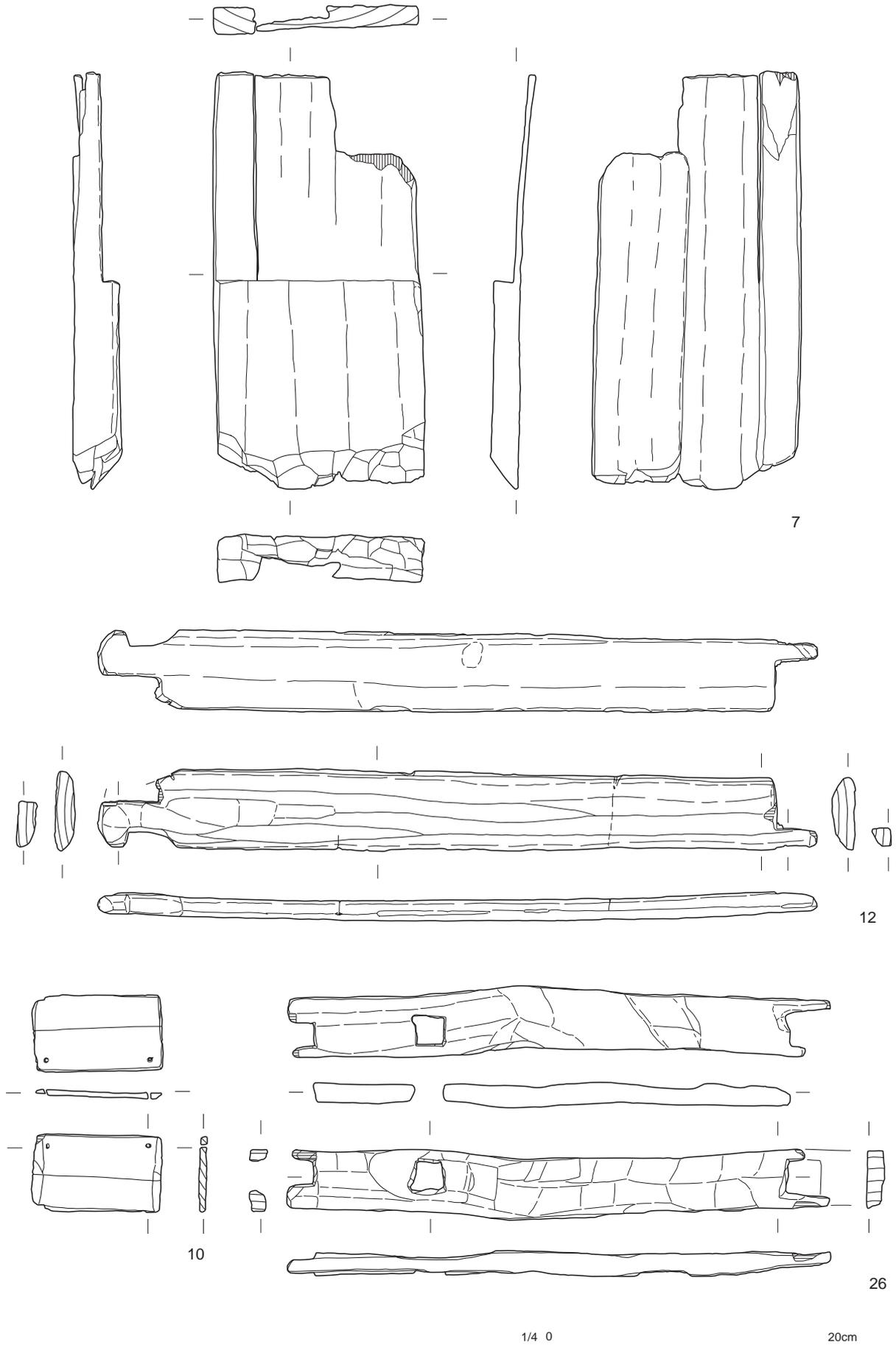


図10 勝川遺跡出土木製品実測図(3) S=1 : 4

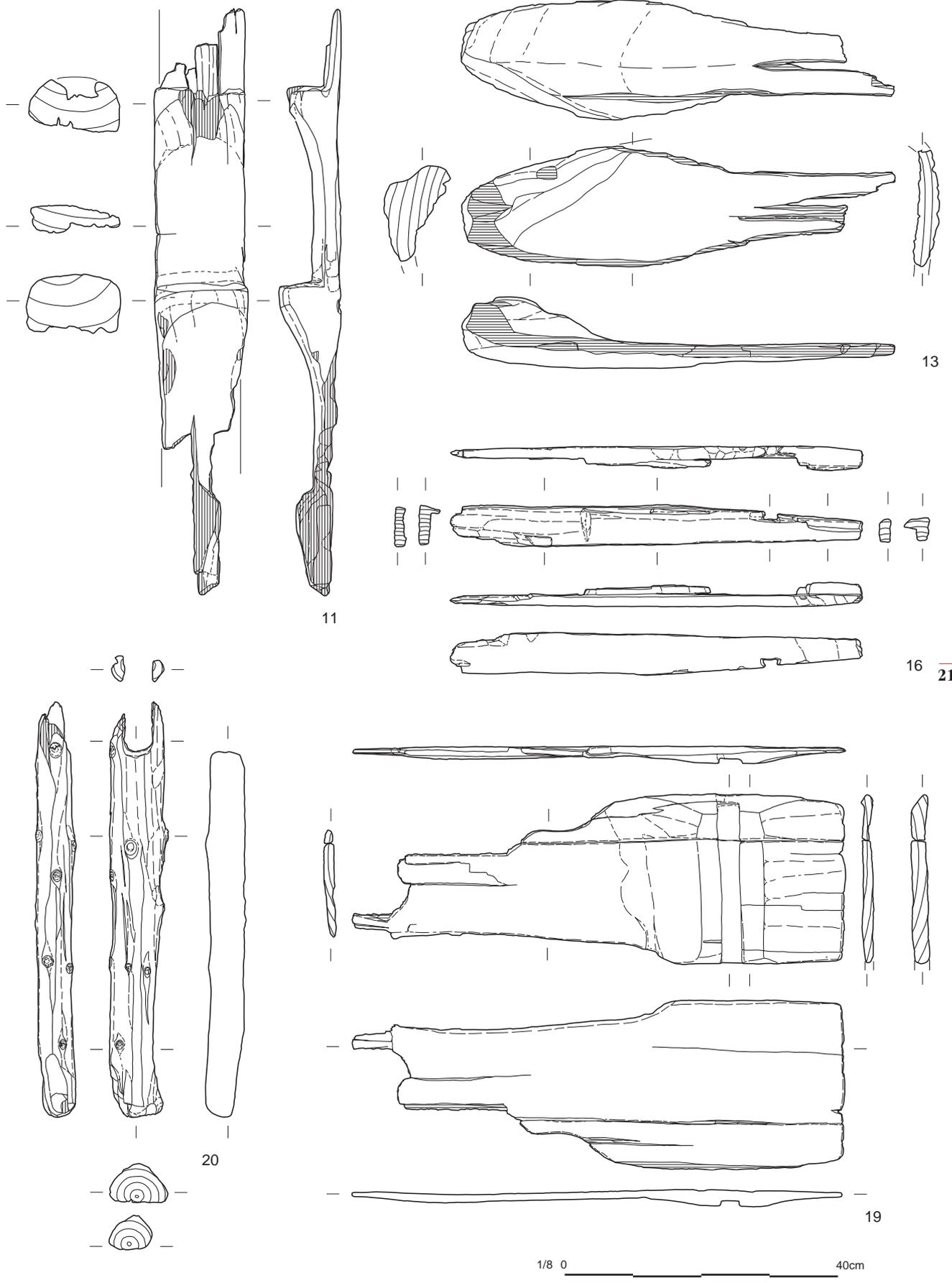
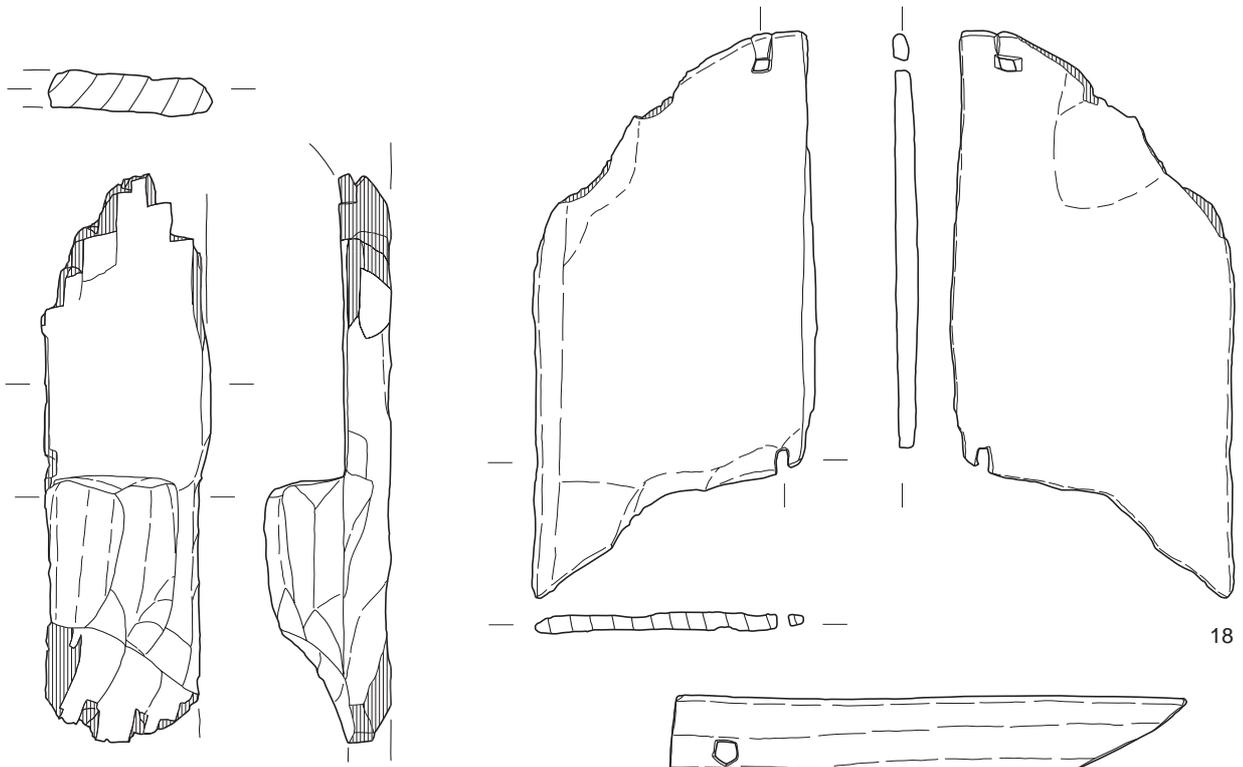
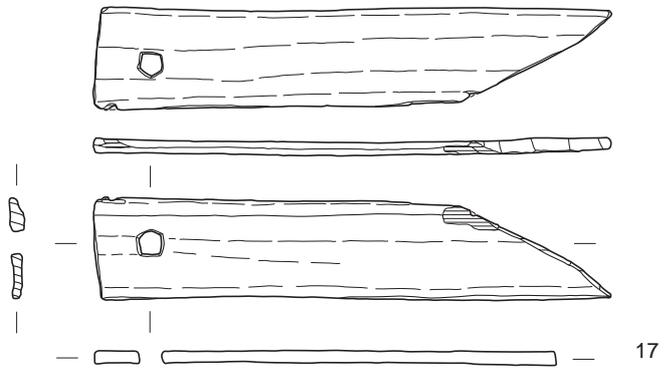
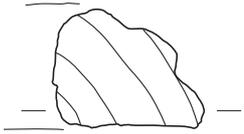


図 11 勝川遺跡出土木製品実測図(4) S=1 : 8



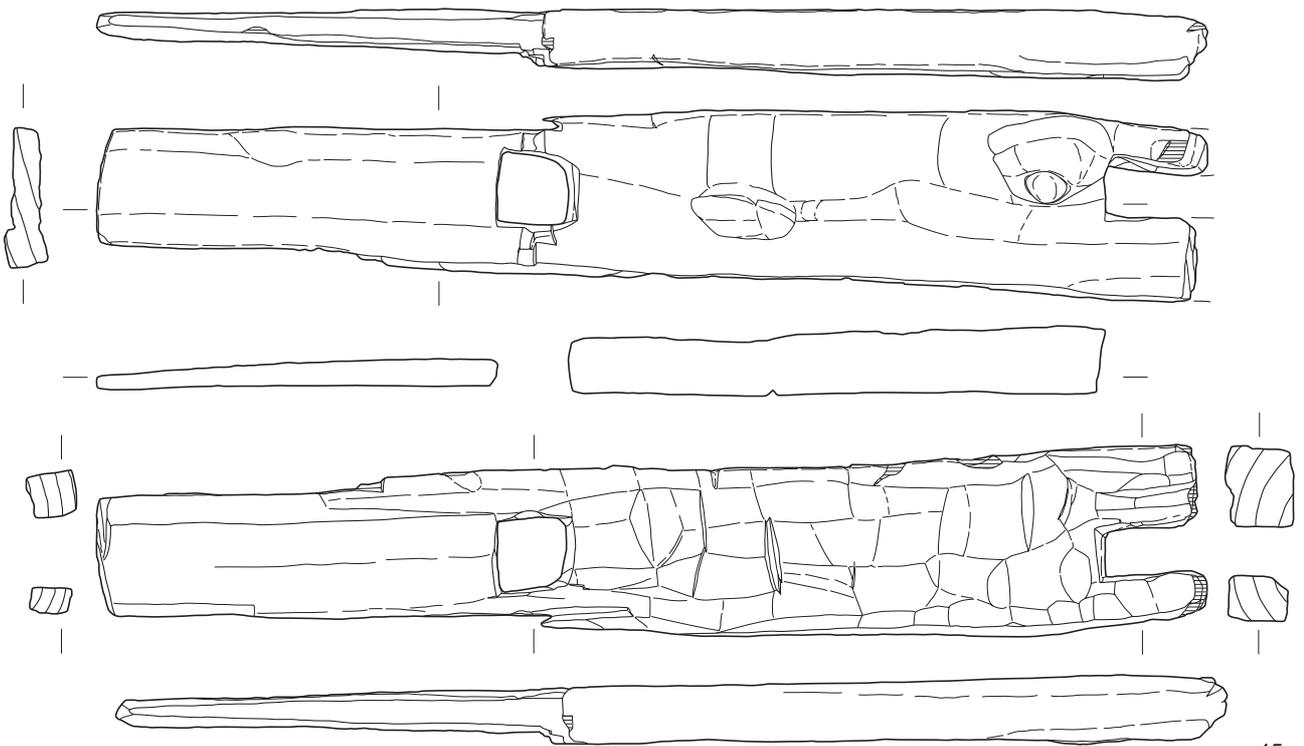
14

18



17

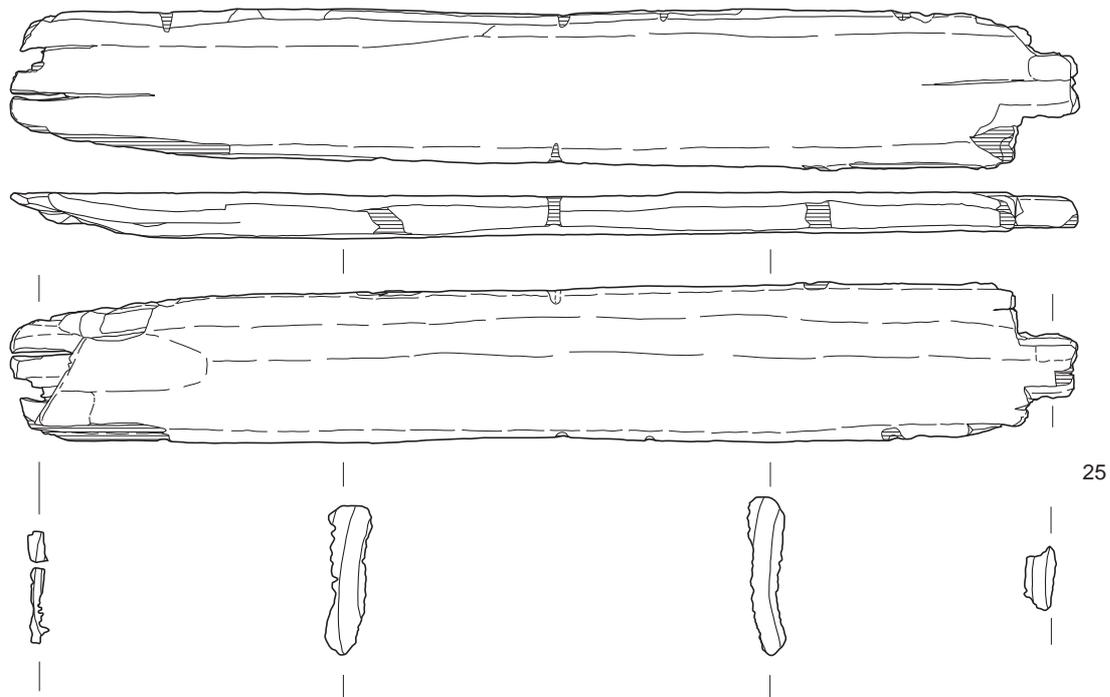
22



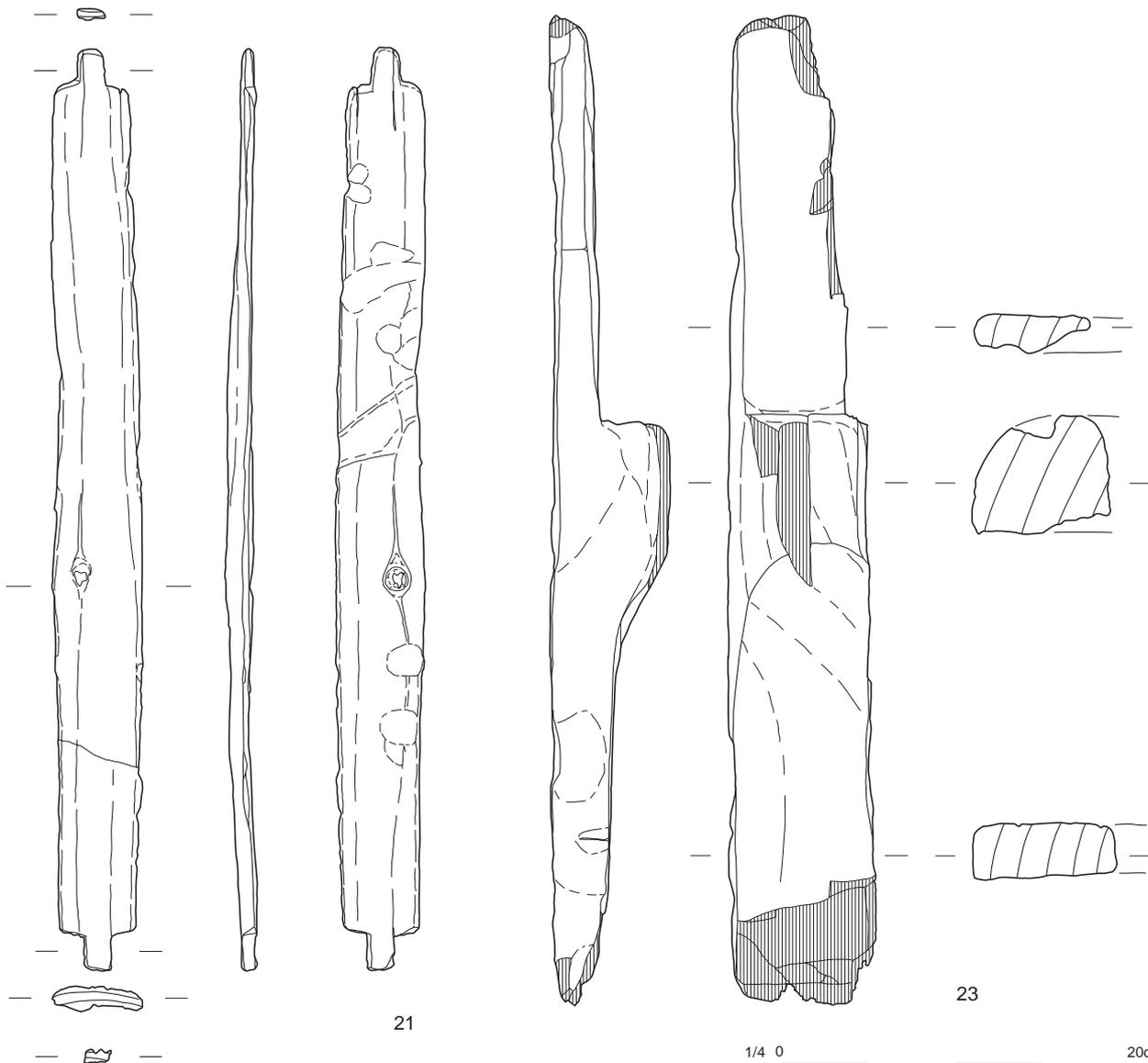
15

1/4 0 20cm

图12 勝川遺跡出土木製品実測図(5) S=1:4



25

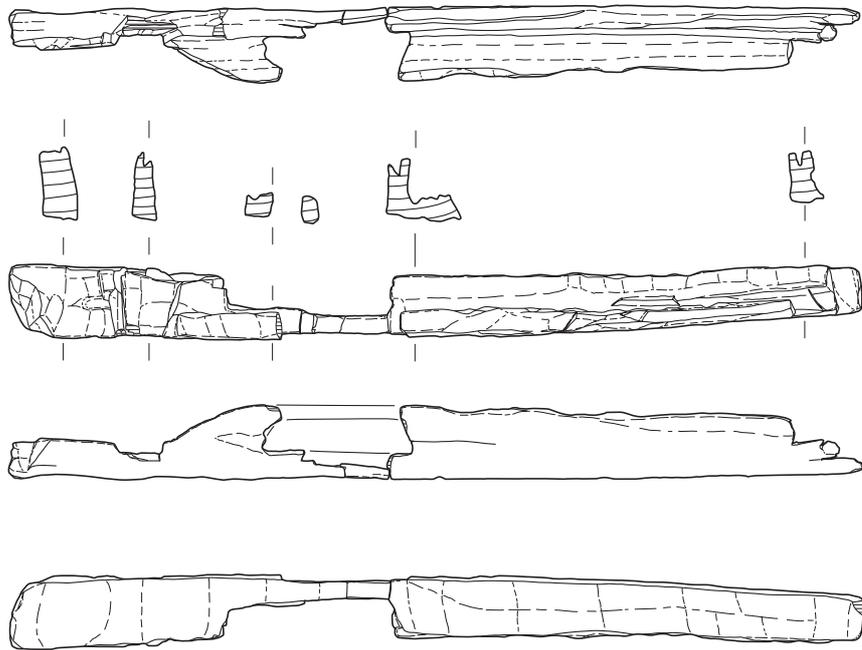
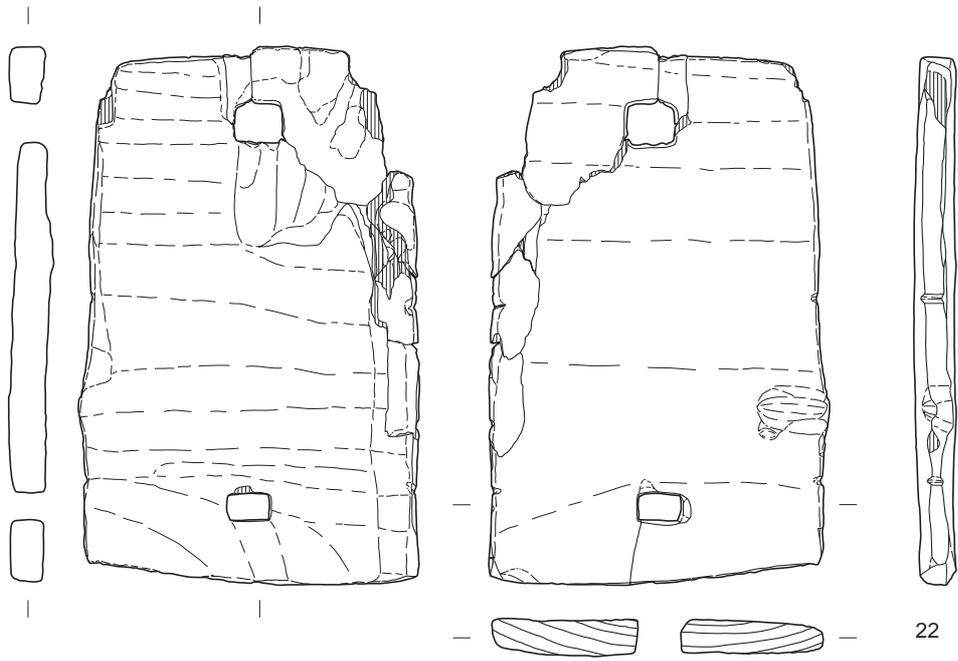


21

23

1/4 0 20cm

図13 勝川遺跡出土木製品実測図(6) S=1:4



1/8 0 40cm

図 14 勝川遺跡出土木製品実測図(7) S=1 : 8

くりだが、脚との接合部分のみやや厚くなっている。ヒノキ属の板目材を使用する。

20は片側に方形の穿孔を施した丸太で、柱材の可能性をもつが、全長が61.3cmと短い。コウヤマキの芯持材を用いる。

この2点はNR01のC区東端付近から出土しており、-2期に属する可能性が高いが、-1期に下ることも考えられる。

(6) -1期(図13・14)

21は両端にホゾ状の突起をつくりだす有挟板で、用途不明の部材である。ヒノキの板目材で、NR01のD区西端付近より出土。

22は左右2ヶ所に長方形のホゾ孔をもつ机の天板である。厚さが3.9cmときわめて分厚い。ケヤキの板目材で、NR01のD区SX04からの出土。

23は梯子でステップが1段のみ残る。ヒノキの柱目材で、NR01のD区SX04からの出土。

24は前述の16に似た形状の有段穿孔板。断面はL字状で、立ち上がり部分の図面上中央やや左寄りに幅約16cm、高さ約3cmの台形を呈する穿孔を施す。建築部材とおもわれる。コナラ節の柱目材で、ND01のC区SX04からの出土。

25は短辺の片側のみにホゾ状の突起をつくりだした有挟板。ヒノキの板目材で、NR01のD区西端付近より出土。

(7) -2期(図10)

26は3ヶ所に方形の穿孔を施した板で、両端を欠損する。穿孔箇所の間隔がばらつくことから、大足の梓木や馬鍬の台木などではなく、板の厚さが1.6cmと薄いことから建築部材である可能性も低い。ヒノキの柱目材で、NR01のC区上層より出土している。

#### 4 器種組成と使用樹種の検討

最初に、今回報告分と『勝川』・『勝川遺跡』、さらに未報告分のデータを合わせたうえで、各時期の器種組成と使用樹種の変遷を検討してみる(図15・16)。

器種組成をみると、~-2期と-1期以降では器種組成が著しく異なる。

~-2期までは掘削具(鍬・鋤類)が10~20%程度を占めるのに対して、-1期以降皆無となる。-2期では、掘削具のみならず、農具・

工具までもが姿を消している。

一方、-1・2期に特徴的にみられるのは人形・舟形といった祭祀遺物である。

また、-2期以前の容器は槽のような割物容器が主体であったのが、-1期以降は曲物容器に変わる。

勝川遺跡の特徴といえる木材加工の面に注目すると、~-2期には直柄広鍬の未成品が出土していること。さらに期~-1期には丸太材があり、-1期から-1期までは少数ながらクサビとみられる器種が出土していること、そして-1・-2期には残材があることから、各時期ともにこの遺跡において、何らかのかたちで木製品を製作していることは間違いない。

次に、各時期ごとに樹種の比較を試みる(図17)。

期では全体の4分の3近くが広葉樹材であるのに対して、-1期では半数強にまで減少し、-2期では針葉樹材が広葉樹材をしのぐようになる。-2期ではついに針葉樹材が約7割を占めるようになる。

杭・板・棒・丸太における広葉樹材と針葉樹材の割合を時期ごとに比較すると、期にはいずれも広葉樹材が半数を超え、特に杭材は約4分の3が広葉樹材で占められていたのに対し、期以降は板・棒・丸太で針葉樹材が広葉樹材を逆転する(図18)。

各個別器種の使用樹種に関しては、かつて尾張地域の木製品の樹種を概観した際に、勝川遺跡についても分析をおこなっている(樋上2002)。その際、勝川遺跡では各時期ともに使用されている樹種の数朝日遺跡や八王子遺跡などと比べてきわめて少ないこと、さらに-1~-2期にはアカガシ亜属とともにコナラ節の使用量が特にめだつことなどを指摘した。以上のことは、勝川遺跡が洪積台地と沖積低地の境に立地する点に由来しているのではないかと筆者は考えている。

筆者の分析では、濃尾平野低地部にはハンノキ亜属やヤナギ属など湿地に生える樹木のほか、マツなどごく限られた樹木しか集落の周辺には自生していないため、朝日遺跡などではアカガシ亜属・コナラ亜属(コナラ節・クヌギ節)などのブナ科の広葉樹やコウヤマキ・スギ・ヒノキ科

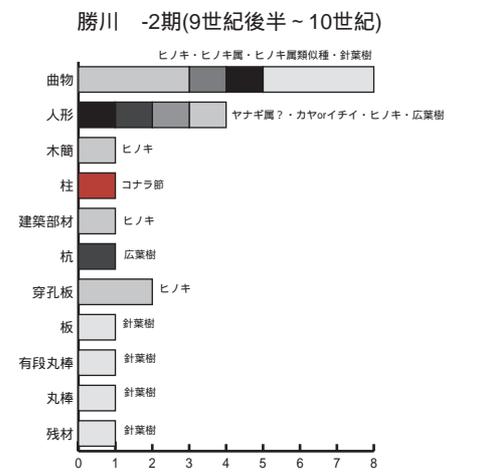
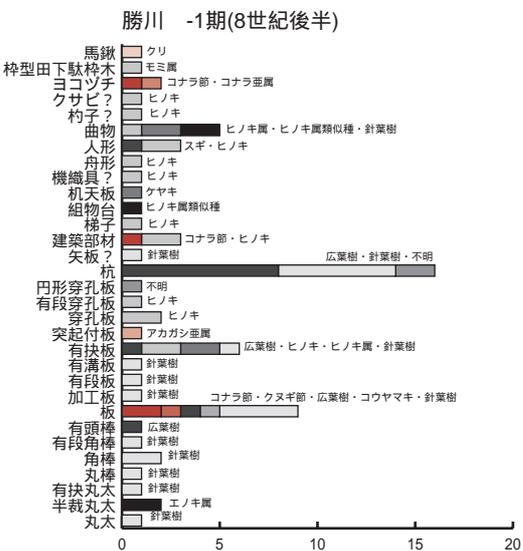
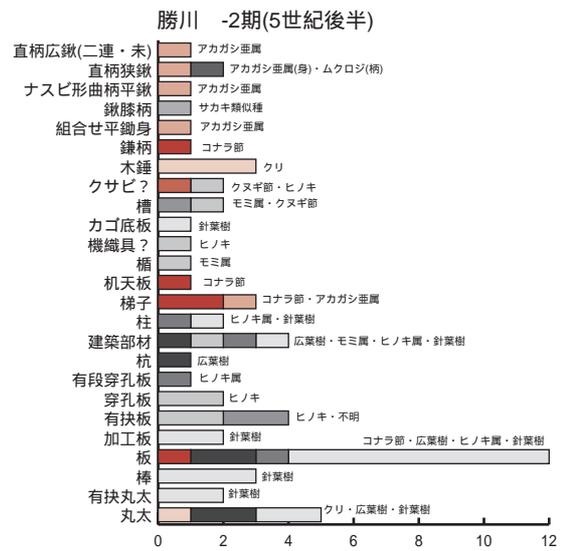
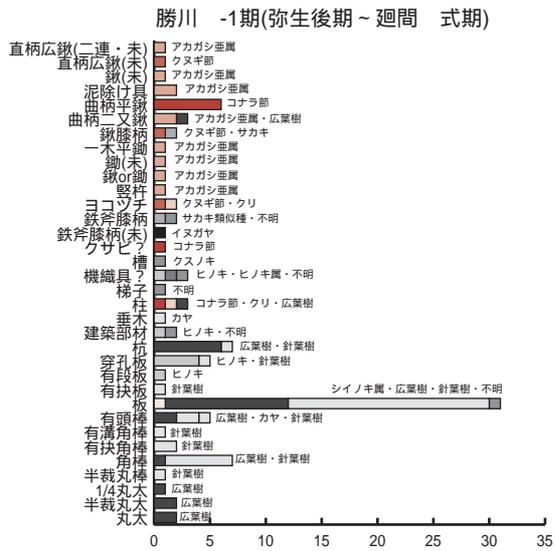
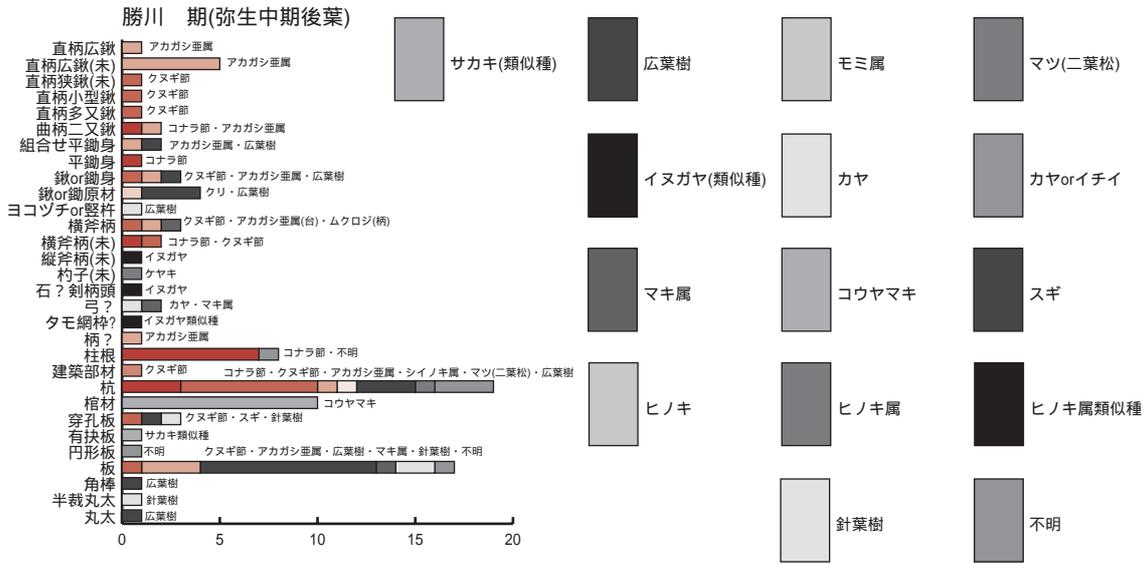
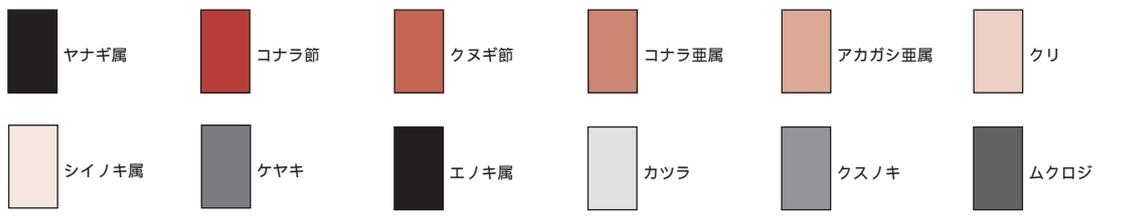


図 15 勝川遺跡器種別使用樹種変遷グラフ

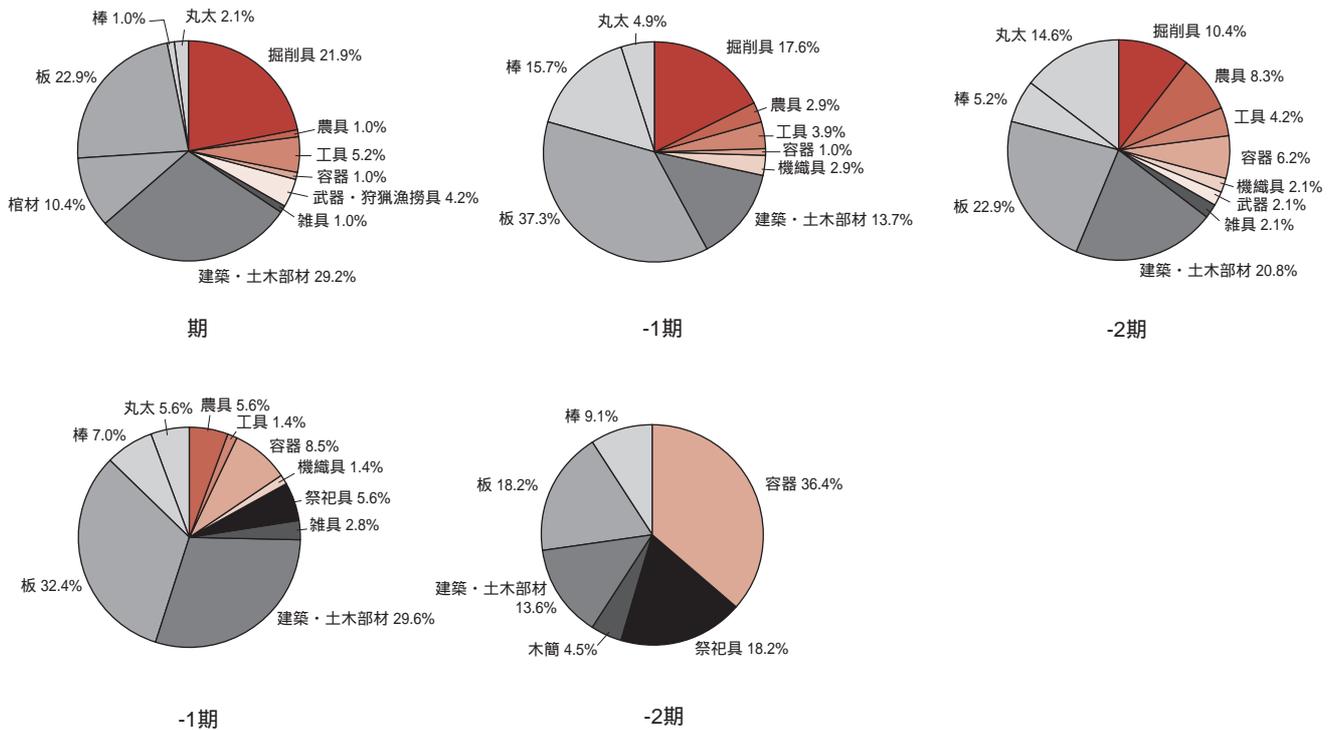
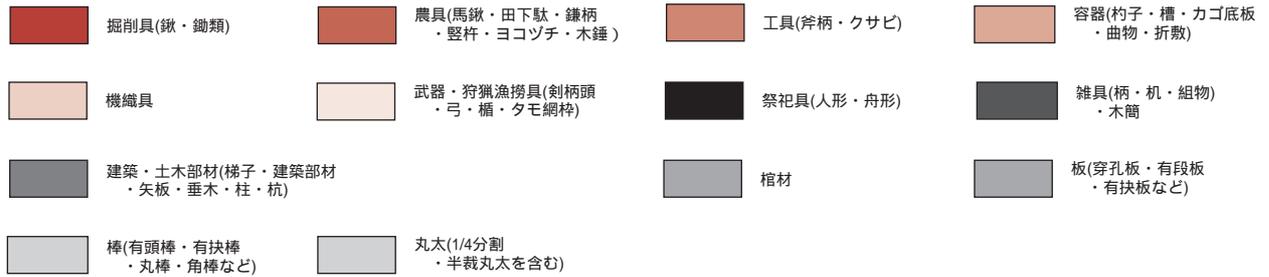


図 16 勝川遺跡時期別器種組成変遷グラフ

などの針葉樹は他地域からの搬入に頼らざるを得なかったとおもわれる。しかし、勝川遺跡は居住域と墓域が営まれた鳥居松段丘上には、本来アカガシ亜属を主体とする豊富な森林が存在し、人間の手が加わることによってコナラ亜属を主体とする二次林化が進行していった可能性が高い。

特に 期の杭については、コナラ亜属のなかでも、コナラ節以上にクヌギ節が多く、全体の約4割におよぶことがわかった。前稿では、八王子・トメキ遺跡における杭の樹種を検討した結果、それぞれヤナギ属・クヌギ節が半数近くを占めることから、杭材には集落の周辺で比較的入手しやすい樹種を用いていた可能性を指摘した。もしこの推定が正しいとするならば、期の勝川遺跡ではクヌギ節がそれに相当していたと考

えられる。

以上のことから、期以来、勝川遺跡ではアカガシ亜属・コナラ亜属といったブナ科の樹木が集落の近辺に豊富にあり、その入手がきわめて容易であったために、朝日遺跡や八王子遺跡などに較べて、これら特定の樹種に偏る傾向が現れるのであろう。

おそらく針葉樹材に関しても庄内川水系を遡ることによって、山地に生えるコウヤマキ・スギ・ヒノキ科などが、濃尾平野低地部の各集落よりはるかに調達しやすい環境にあったのではなかろうか。

### おわりに

以上、勝川遺跡出土の木製品について、未報告

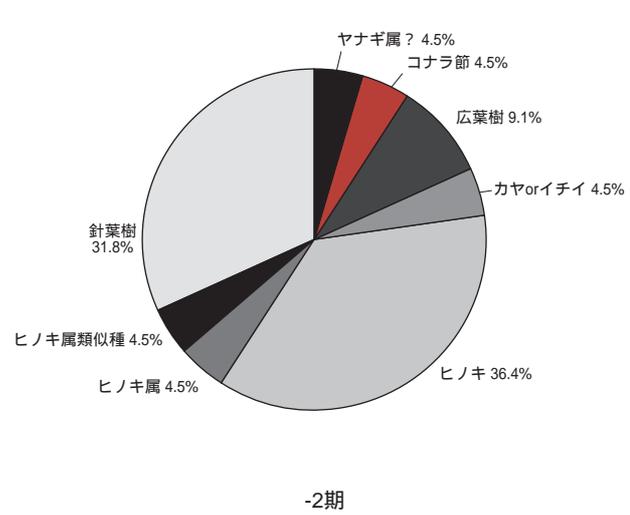
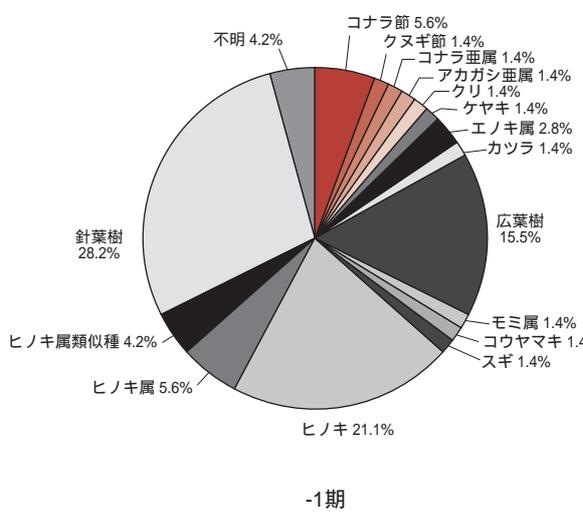
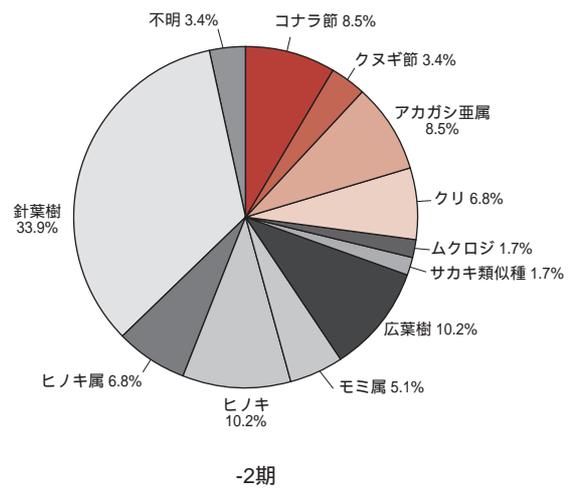
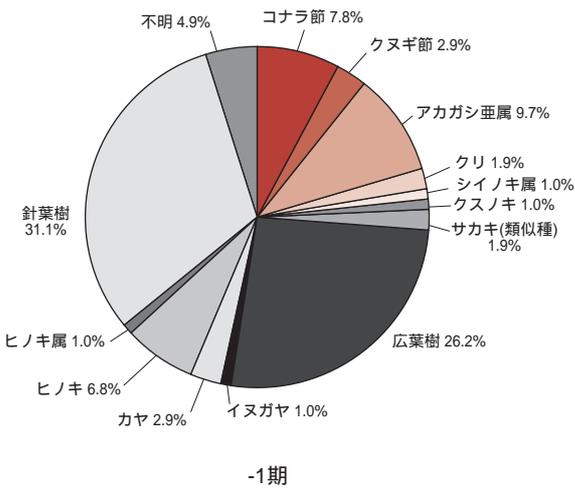
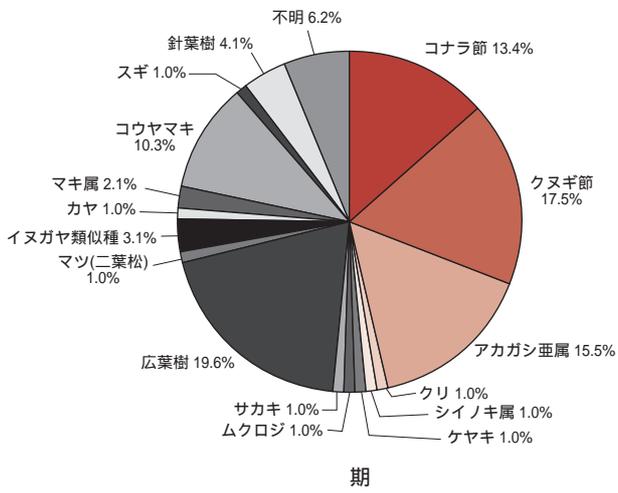
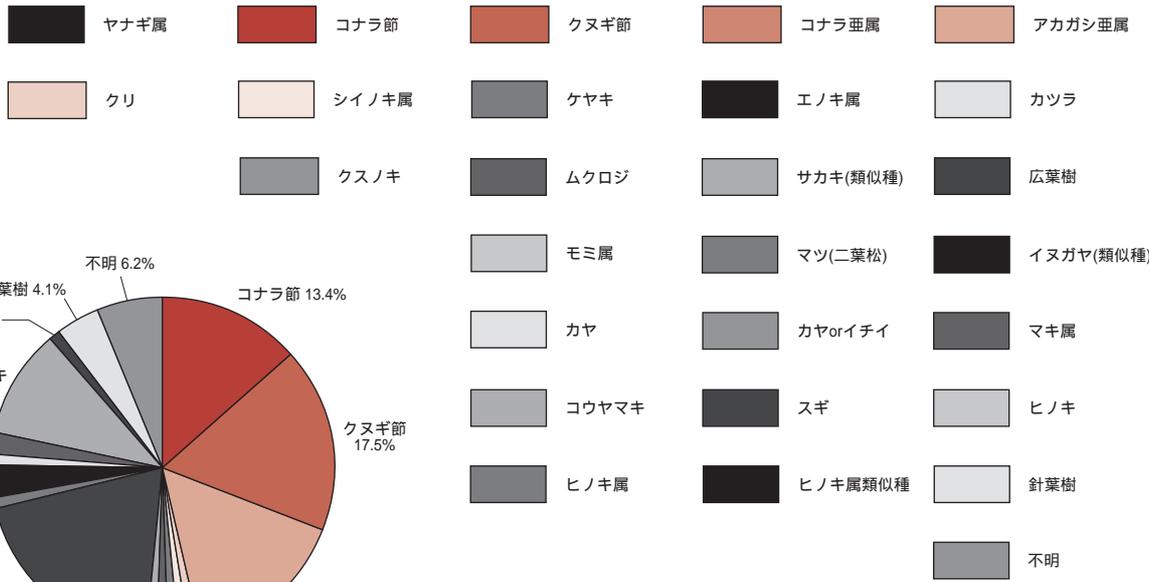
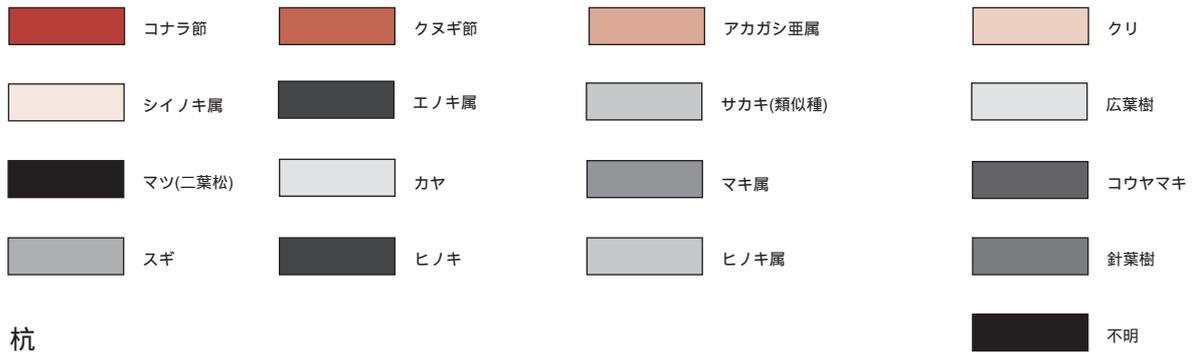
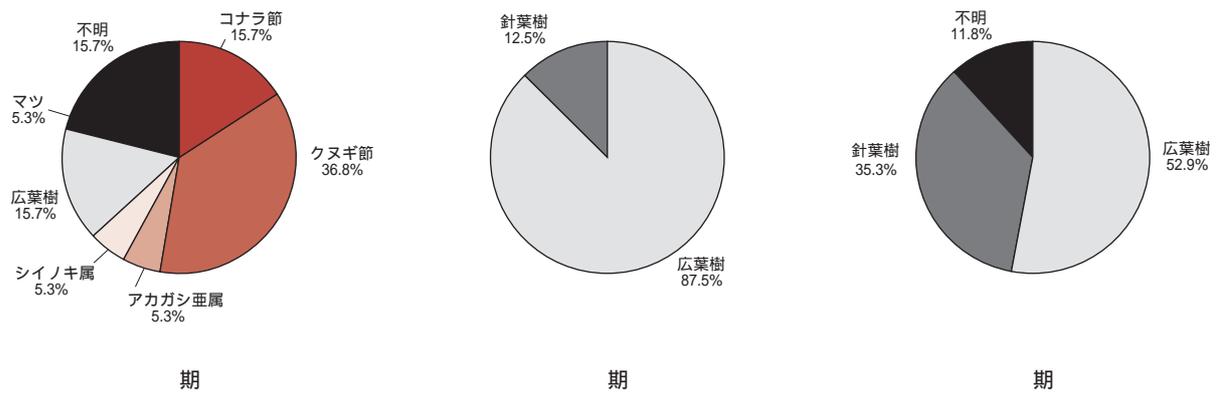


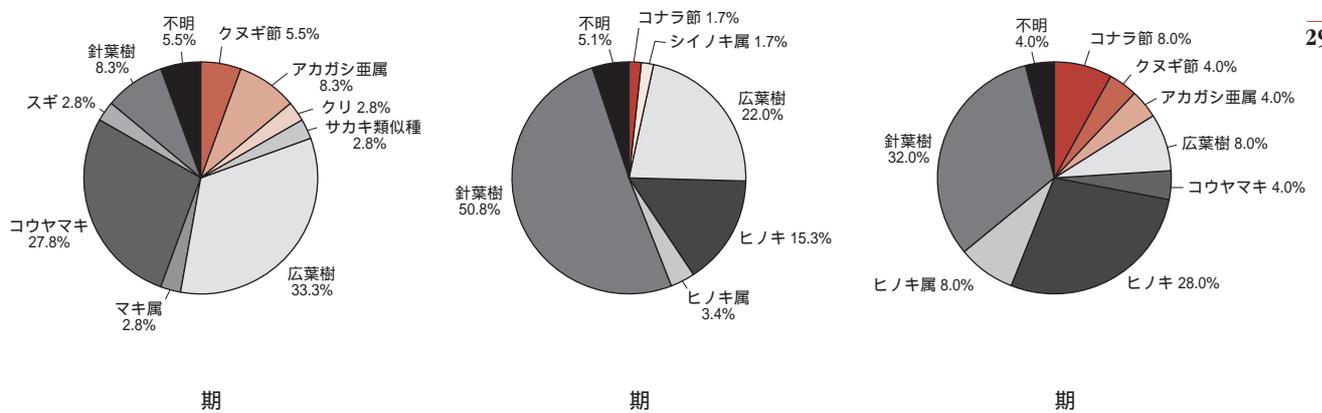
図 17 勝川遺跡時期別使用樹種組成変遷グラフ



杭



板(鋸or鋤原材、棺材、穿孔板などを含む)



棒・丸太

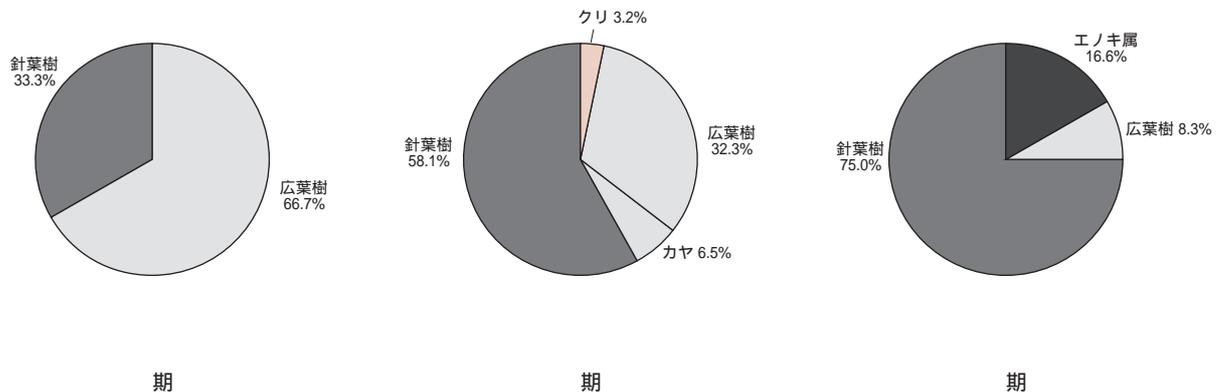


図 18 勝川遺跡出土杭・板・棒・丸太の樹種組成

分のごく一部を紹介するとともに、若干の考察をおこなってきた。

まず、勝川遺跡出土木製品の最大の特徴は、その時代幅の広さであろう。尾張地域で複数の時期に属する木製品が出土している遺跡としては、朝日・八王子・志賀公園遺跡があげられる。しかし、朝日遺跡では弥生中期前葉から古墳前期初頭までの木製品が出土しているが、それ以降のものはない。八王子遺跡では古墳前期初頭から古墳中期まで、志賀公園遺跡は5世紀後半から8世紀前半までである。勝川遺跡は弥生中期後葉に始まり、弥生後期～古墳前期初頭、5世紀後半、8世紀後半、そして9世紀後半～10世紀におよぶ。このように長期間にわたって木製品の器種組成の変遷が追える遺跡は、愛知県下はおろか、全国的にも数少ないといえる。

勝川遺跡では、集落ならびに墓域が立地する台地上に自生するブナ科を主体とする広葉樹材とともに、庄内川を通じて入手した針葉樹材を合わせて集落内の沖積低地に位置する苗田地区において製材・加工していたのであろう。そのなかで、自家消費分については完成品段階まで加工し、さらに庄内川水系の下流にある集落へは完成品とともに半裁の丸太やミカン割り材などの原材をも流通させていたと考えられる。

庄内川水系ではないが、朝日遺跡では、太径木の丸太材こそないものの、4分の1や8分の1に分割された一定の長さのミカン割り材が比較的多く出土している。おそらくこういったミカン割り材は、勝川遺跡のような原木の入手が容易な集落で伐採・製材し、河川を通じて朝日遺跡へと運ばれたのであろう。勝川遺跡は庄内川水系において、このような木材を媒介とする物流拠点的性格をもった集落であった可能性が高い。

古代の木製品に関しては、『勝川遺跡』における筆者らの考察（坪井・樋上1992）を大きく変更する必要はないと考えている。ただ、筆者がおこなった志賀公園遺跡出土木製品との比較から、勝川廃寺の周辺には春部郡衙が存在する可能性があり、62F区NR01から出土した祭祀遺物群は一寺院にかかわるものではなく、郡衙における祭祀行為にかかわる蓋然性がより高くなったといえよう（樋上2001）。

最後になったが、今後は未だ多数残されてい

る木製品の実測と樹種同定を早急に進め、より具体的な勝川遺跡のイメージをあきらかにしていきたい。

なお、本稿において木製品のデジタルトレースをお手伝いいただいた阿部佐保子さん、ならびに木製品の再整理作業にご助力いただいた林真弓さん、前田弘子さんに感謝いたします。

#### 引用文献

- 愛知県教育サービスセンター1984『勝川』愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査報告書 第1集  
愛知県埋蔵文化財センター1988『勝川遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第3集  
愛知県埋蔵文化財センター1989『町田遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第9集  
愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第19集  
愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第29集  
石黒立人1984「勝川遺跡出土の大型板材について」『勝川』愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査報告書 第1集  
春日井市教育委員会1970『南東山古墳・南東山遺跡』春日井市遺跡発掘調査報告 第4集  
春日井市教育委員会1981『尾張 勝川廃寺範囲確認調査概報』  
春日井市教育委員会1982『尾張 勝川廃寺範囲確認調査概報』第2次  
春日井市教育委員会1983『尾張 勝川廃寺範囲確認調査概報』第3次  
春日井市教育委員会1984『尾張 勝川廃寺範囲確認調査概報』第4次  
坪井知江子・樋上 昇1992「勝川遺跡から出土した墨書土器・祭祀具の意義について」『勝川遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第29集  
奈良国立文化財研究所1993『木器集成図録 近畿原始篇（解説）』  
丹羽 博1984「苗田地区の弥生時代建物群」『勝川』愛知県教育サービスセンター埋蔵文化財調査報告書 第1集  
樋上 昇2001「98K区NR07出土の木製品群について」『志賀公園遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第90集  
樋上 昇2002「樹種からみた尾張地域の木製品」『考古学フォーラム』15  
宮腰健司2002「尾張低地部における小規模古墳の様相」『研究紀要』第3号 愛知県埋蔵文化財センター  
渡辺 誠1985「ヨコツチの考古・民具学的研究」『考古学雑誌』70-3



68	2434	人形	62F		SX04(NR01 C-c SX04)	26(W-41)	870825	-1期	スギ	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
69	2447	人形	62F	I13o	SX04(NR01 C-c SX04)	3(W-40)	870811	-1期	ヒノキ	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
70	2435	人形	62F		SX04(NR01 D-d)	35(W-57)	870904	-1期	ヒノキ	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
71	2448	舟形	62F		SX04(NR01)	(W-189)		-1期	ヒノキ	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
72	2442	馬楸	62F	I11-12q	SX04(NR01 D-d SX04上層・NR01下層)		870807				
73	4848	特型田下駄杵木	62F	I12m	SX04(NR01 D-a)	1(W-67)	870430	-1期	クリ	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
74	2935	ヨコツチ	62F	I12q	SX04(NR01 D-d SX04)	(W-77)	870814	-1期	モミ属	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
75	2433	ヨコツチ	62F		SX04(NR01 C-c SX04)	3(W-22)	870825	-1期	コナラ亜属	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
76	4915	折敷底板	62F		SX04(NR01)	2(W-84)		-1期	ヒノキ属	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
77	2430	円形曲物	62F	I12o	SX04(NR01 D-c SX04)	2(W-89)	870807	-1期	ヒノキ類似種	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
78	3627	円形穿孔板	62F		SX04(NR01 C-c SX04)	34(W-83)	870904	-1期		愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
79	2934	組物台	62F	I11q	SX04(NR01 D-d 2層)	(W-91)	870806	-1期	ヒノキ属類似種	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
80	6584	有扶板	62F	I13m	SX04(NR01 D-a SX04)	1(W-45)	870904	-1期	ヒノキ属	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
81	3140	有扶板	62F	I13l	SX04(NR01 C-c SX04)	33(W-82)	870904	-1期	ヒノキ属	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
82	2432	木簡	62F	I13j	NR01- (NR01 C-b)	(W-56)	870821	-2期	ヒノキ	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
83	2431	人形	62F	I14i	NR01- (NR01 C-b 2層)		870824	-2期	広葉樹	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
84	2428	人形	62F	I13i	NR01- (NR01 C-a 下部礫層上)	2(W-54)	870902	-2期	ヒノキ	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
85	2427	人形	62F	I14i	NR01- (NR01 C-a 2層)	1(W-53)	870828	-2期	カヤorイチイ	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
86	2426	人形	62F	I14i	NR01- (NR01 C-a 2層)	1(W-52)	870828	-2期	ヤナギ属?	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
87	807	円形曲物	62F	I13i	NR01- (NR01 C-b 2層)	6	870827	-2期	ヒノキ属	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
88	2932	円形曲物	62F	I13i	NR01- (NR01 C-a 底面砂上粘土中)	3	870904	-2期	ヒノキ類似種	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
89	2951	円形曲物	62F	I13j	NR01- (NR01 C-b 2層)	3	870824	-2期	針葉樹	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
90	2949	方形曲物	62F	I14h	NR01- (NR01下層)		870427	-2期	針葉樹	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a
91	2429	円形曲物(穿孔)	62F		NR01- (NR01 C-b 2層)			-2期	針葉樹	愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡』	a

### 勝川遺跡出土木製品一覧表(未報告分)

保存処理番号	器種名	調査区	グリッド	出土遺構	取り上げ番号	日付	所属時期	樹種	量目	備考
3659	板	62F		SX01	4		期	針葉樹 柱目材	41.0/29.1.0	
2411	板(又線刀部?)	62F		SX01	8(W-5)		期	アカガシ亜属 柱目材	16.9/4.5/1.2	
2956	角棒	62F		SX01	10		期	広葉樹 ミカン割り材	37.0/6.6/5.5	
2418	鋤身	62F		SX01	14	870701	期	クスギ 柱目材	24.2/17.0/1.7	
2906	板(樹or鑄原材)	62F		SX01	16(W-76)		期	クリ 柱目材	29.8/13.8/2.1	
3624	板(樹or平鋸?)	62F		SX01	20(W-2)		期	クスギ 柱目材	26.2/11.7/1.2	
4933	板	62F		SX01	21		期	広葉樹 板目材	68.0/7.5/2.5	
4886	板	62F		SX01	23		期	広葉樹 ミカン割り材(1/8)	71.0/9.7/4.5	
2965	半載丸太	62F		SX01	24		期	針葉樹 半載材	23.0/7.2/5.3	
6642	丸太	62F		SX01	25	870702	期	広葉樹 芯持材	50.3/9.0R	
3643	板(樹or鑄原材)	62F		SX01	26(W-74)	870702	期	広葉樹 柱目材	19.0/11.1/2.5	
3671	板	62F		SX01	27		期	広葉樹 板目材	31.8/4.7/3.4	
6624	板	62F		SX01	28	870701	期	広葉樹 柱目材	26.6/10.8/3.3	
6635	丸杭	62F		SX01	31	870702	期	広葉樹 芯持材	81.0/5.0R	
6066	板	62F		SX01	31		期	広葉樹 柱目材	56.5/10.0/3.0	
3697	板	62F		SX01	34(W-75)	870701	期	マキ属 柱目材	17.7/9.2/5.7	
2960	板(樹原材)	62F	I7a	SX01			期	広葉樹 柱目材	8.4/14.5/1.1	
2980	板	62F	I7b	SD01下層	1	870728	期	広葉樹 柱目材	52.6/6.1/6	
6605	ヨコツチ(整片?)	62F	I7b	SD01下層	2	870728	期	コナラ部? 芯持材	39.5/6.5/5.8	
2921	板	62F	I7b	SD01下層	5	870728	期	広葉樹 ミカン割り材	40.6/6.1/6	
2966	板	62F	I7b	SD01下層	7	870728	期	広葉樹 ミカン割り材	39.5/5.0/2.7	
2982	鋤or鋤身	62F	I7b	SD01下層		870728	期	広葉樹 柱目材	17.4/8.6/0.6	接合不能
2944	板(樹or鑄原材)	62F	I7b	SD01下層		870729	期	広葉樹 柱目材	11.2/12.5/2.0	
4953	有扶板(建築部材?)	62F		NR01 A-a 掘込区 SD13	3	870827	期	クスギ 柱目材	125.9/11.8/3.2	
6600	丸杭	62F		NR01 A-a 掘込区 SD13	7	870827	期	広葉樹 芯持材	121.5/3.4R	
3655	丸杭	62F		NR01 A-a 掘込区 SD13	14	870827	期	広葉樹 ミカン割り材	52.0/7.0/4.0	
3150	穿孔板	62F		NR01 A-a 掘込区 SD13	20(付属品)	870827	期	針葉樹 板目材	29.3/3.7/1.6	
4962	板	62F		NR01 A-a 掘込区 SD13	26	870905	期	針葉樹 柱目材	47.0/9.5/2.8	
3654	丸杭(又木)	62F		NR01 A-a 掘込区 SD13	32	870905	期	広葉樹 芯持材	42.5/4.5R	
2969	有扶角棒	62F	I14g	NR01 B-c 発生後期薄層積物		870904	-1期	針葉樹 柱目材	15.6/2.8/1.6	
6618	鋤未成品	62F	I12j(q?)	NR01 D-b SX03	2(W-70)		-1期	アカガシ亜属 柱目材	36.0/16.3/3.4	
2973	有頭棒	62F	I12p	NR01 D-b SX03	39(付属品)	870814	-1期	広葉樹 芯持材	6.3/4.5R	
4842	角棒	62F		NR01 D-b SX03	42	870814	-1期	針葉樹 柱目材	56.9/1.9/1.6	
4840	角棒	62F		NR01 D-b SX03	52	870814	-1期	針葉樹 柱目材	58.3/1.9/1.4	
4916	丸太(杭?)	62F		NR01 D-b SX03	57	870814	-1期	広葉樹 芯持材	72.2/5.3R	
4872	板	62F		NR01 D-b SX03	62	870814	-1期	針葉樹 追柱目材	82.3/10.2/1.2	
4839	角棒	62F		NR01 D-b SX03	63	870814	-1期	針葉樹 柱目材	57.4/3.0/1.8	
4912	穿孔板(建築部材)	62F		NR01 D-b SX03	65	870814	-1期	ヒノキ 追柱目材	74.8/13.0/1.5	
3114	有頭棒(里木)	62F		NR01 D-b SX03	66(W-98)	870814	-1期	カヤ 芯持材	145.0/4.0R	
3010	半載丸棒	62F		NR01 D-b SX03	71	870814	-1期	針葉樹 半載材	24.5/2.8/1.7	
4863	板	62F		NR01 D-b SX03	71	870814	-1期	針葉樹 追柱目材	44.5/13.5/2.5	
4902	角棒	62F		NR01 D-b SX03	75	870814	-1期	針葉樹 柱目材	101.2/2.3/1.4	
3711	有溝角棒	62F		NR01 D-b SX03	76	870814	-1期	針葉樹 柱目材	26.5/2.6/2.2	
3665	丸杭	62F		NR01 D-b SX03	78	870814	-1期	針葉樹 芯持材	64.0/4.5R	
6640	有扶板(機軸具?)	62F		NR01 D-b SX03	80	870814	-1期	ヒノキ 柱目材	49.0/4.7/0.7	
4854	板	62F		NR01 D-b SX03	82	870814	-1期	針葉樹 板目材	213.9/5.7/2.0	
4876	穿孔板	62F		NR01 D-b SX03	84	870814	-1期	ヒノキ 柱目材	98.4/8.5/1.8	
4869	板	62F		NR01 D-b SX03	85	870814	-1期	針葉樹 板目材	94.0/8.0/3.8	
3708	板	62F		NR01 D-b SX03	88	870817	-1期	針葉樹 板目材	16.4/2.4/0.6	
6615	板	62F	I10n	NR01 D-b SX03	89	870817	-1期	針葉樹 追柱目材	57.0/10.3/2.3	
3179	板(樹or鑄身?)	62F		NR01 D-b SX03	114	870818	-1期	アカガシ亜属 追柱目材	20.2/9.3/0.8	
3680	角棒	62F		NR01 D-b SX03	119	870818	-1期	針葉樹 板目材	48.4/1.5/0.8	
3169	穿孔板	62F		NR01 D-b SX03	127	870820	-1期	針葉樹 板目材	25.2/5.8/1.7	
4849	柱	62F		NR01 D-b SX03	140	870820	-1期	広葉樹 芯持材	175.5/16.0/8.5	
3715	角棒	62F		NR01 D-b SX03	143	870820	-1期	広葉樹 ミカン割り材(1/4)	35.5/7.6/4.3	
3716	板	62F		NR01 D-b SX03	150	870820	-1期	広葉樹 柱目材	39.5/6.5/1.2	
4879-1	穿孔板	62F		NR01 D-b SX03	156-1	870820	-1期	ヒノキ 追柱目材	58.2/8.8/1.4	
4879-2	板	62F		NR01 D-b SX03	156-2	870820	-1期	針葉樹 柱目材	71.0/9.8/1.5	
6593	板	62F		NR01 D-b SX03	167	870821	-1期	針葉樹 柱目材	45.0/4.0/1.4	
6598	板	62F	I11o	NR01 D-b SX03	168	870821	-1期	針葉樹 柱目材	51.0/8.5/1.2	
2529	柱(又木)	62F		NR01 D-b SX03	169		-1期	コナラ部 柱目材	282.0/11.0R	
3641	板	62F	I12p	NR01 D-b-c SX03	13	870814	-1期	広葉樹 柱目材	42.9/6.8/2.6	
2914	丸杭	62F	I12d(q?)	NR01 D-b-c SX03	14	870814	-1期	広葉樹 芯持材	47.0/6.0R	
2927	板	62F	I12p	NR01 D-b-c SX03	17	870814	-1期	広葉樹 ミカン割り材	66.9/10.0/2.8	
2905	板	62F	I12p	NR01 D-b-c SX03	18	870814	-1期	広葉樹 板目材	74.3/5.7/3.5	
3653	板	62F		NR01 D-b-c SX03	29-30	870814	-1期	針葉樹 追柱目材	38.5/5.0/2.1	
4963	有頭棒	62F	I12p	NR01 D-b-c SX03	32	870814	-1期	針葉樹 半載材	146.4/3.0/1.7	
3632	板	62F	I12p	NR01 D-b-c SX03	37	870814	-1期	広葉樹 柱目材	55.8/8.0/2.0	
6604	丸太	62F		NR01 D-b-c SX03	42	870814	-1期	広葉樹 芯持材	23.9/9.0R	
3649	クサビ?	62F		NR01 D-b-c SX03	48	870814	-1期	コナラ部 芯持材	31.0/5.2/5.3	
2967	板	62F		NR01 D-b-c SX03	60	870814	-1期	広葉樹 ミカン割り材	83.5/7.9/3.0	
6639	角棒	62F		NR01 D-b-c SX03	61	870814	-1期	針葉樹 板目材	47.0/5.0/2.2	
3674	板	62F		NR01 D-b-c SX03	81	870814	-1期	針葉樹 板目材	27.0/5.8/1.0	
3660	板	62F		NR01 D-b-c SX03	86		-1期	広葉樹 ミカン割り材	44.0/9.5/3.8	
5298	板	62F		NR01 D-b-c SX03	109	870818	-1期	針葉樹 柱目材	41.8/9.2/1.2	
2919	板	62F		NR01 D-b-c SX03	110	870818	-1期	広葉樹 柱目材	39.5/11.0/1.4	
6616	丸杭	62F	I12j	NR01 D-b-c SX03	146	870820	-1期	広葉樹 芯持材	38.0/9.0/5.4	
4896	丸杭	62F		NR01 D-b-c SX03	147	870820	-1期	広葉樹 芯持材	68.0/6.2R	
3123	有扶板(平鋸未成品?)	62F		NR01 D-b-c SX03		870814	-1期	アカガシ亜属 板目材	37.8/13.2/3.2	
4918	板	62F	I12p	NR01 D-c SX03	22	870814	-1期	広葉樹 板目材	70.0/13.8/3.3	
4881	板	62F	I11o	NR01 D-c SX03下層	3	870827	-1期	広葉樹 板目材	87.9/11.6/3.7	
6587	板(直柄広鋸未成品)	62F	I11o	NR01 D-c SX03下層		870827	-1期	クスギ 柱目材	37.5/22.0/2.8	
4919	丸太(杭?)	62F	I12p	NR01 D-d SX03	33	870814	-1期	広葉樹 芯持材	75.0/6.5R	
4874	有頭棒	62F	I11o	NR01 SX03	4	870813	-1期	広葉樹 柱目材	79.0/2.8/2.2	
4880	杭	62F	I11o	NR01 SX03	5	870813	-1期	広葉樹 芯持材	73.2/4.0R	
3113	柱(又木)	62F	I12p	NR01 SX03	7	870814	-1期	クリ 芯持材	160.0/5.0R	
5290	半載丸太	62F	I12p	NR01 SX03	10	870814	-1期	広葉樹 半載材	18.0/13.5/5.3	
2986	板	62F	I12p	NR01 SX03	12	870814	-1期	針葉樹 板目材	24.3/6.9/0.5	
3703	板(残材?)	62F	I12p	NR01 SX03	16					

3672	板	62F	I11o	NR01 SX03	870805	-1期	針葉樹	板目材	33.7/6.1/0.8		
2996	丸杭	62F		NR01 C-b-c セクション中砂層下	870917	-1期?	広葉樹	芯持材	19.3/2.5R		
3119	板	62F	I11o	NR01	870430	-1期?	シイノキ属	半截材	125.2/10.5/6.8		
4920	丸太	62F	I11o	NR01	870430	-1期?	広葉樹	芯持材	80.0/10.0/7.0		
4873	1/4分割丸太	62F	I11o	NR01	870430	-1期?	広葉樹	ミカン割り材(1/4)	98.2/7.6/5.0		
3152	角棒	62F		NR01 D-a SX03	870819	-1or -2期	ヒノキ属	板目材	16.0/4.0/1.2		
6619	角棒	62F	I12m	NR01 D-a SX03下層	4	870916	-1or -2期	針葉樹	板目材	50.0/1.7/1.1	
6633	板	62F		NR01 D-a SX03	8	870819	-1or -2期	針葉樹	追紐目材	71.0/13.7/2.5	接合不能
2528	板	62F		NR01 D-a SX03	9		-1or -2期	コナラ節	ミカン割り材	198.5/7.5/2.5	
3650	梯子	62F		NR01 D-a SX03	20(付属品)	870819	-1or -2期	コナラ節	半截材	26.3/10.2/8.8	本体あり(実測済)
3729	板	62F		NR01 D-a SX03	25	870819	-1or -2期	針葉樹	追紐目材	6.9/3.5/0.4	
3689	丸太	62F		NR01 D-a SX03	44	870820	-1or -2期	針葉樹	芯持材	26.2/5.2R	
4926-1	有溝板(建築部材?)	62F		NR01 D-a SX03	55	870820	-1or -2期	コナラ節	追紐目材	55.0/2.7/1.5	
4926-2	有溝板(建築部材?)	62F		NR01 D-a SX03	55	870820	-1or -2期	コナラ節	追紐目材	55.0/2.7/1.5	
3199	板(残材?)	62F		NR01 D-a SX03	56	870820	-1or -2期	針葉樹	追紐目材	13.3/16.0/1.6	
4853	柱	62F		NR01 D-a SX03	57	870820	-1or -2期	針葉樹	芯持材	168.2/7.7R	
4887	角棒	62F		NR01 D-a SX03	59	870820	-1or -2期	針葉樹	板目材	65.5/2.2/2.3	
6628	丸太	62F		NR01 D-a SX03	62	870820	-1or -2期	針葉樹	芯持材	22.0/12.0R	
6608	丸杭	62F		NR01 D-a SX03	63	870820	-1or -2期	広葉樹	芯持材	48.6/5.0R	
3139	両端尖板	62F		NR01 D-a SX03	66	870820	-1or -2期	針葉樹	板目材	11.8/1.8/0.8	
6630	板	62F	I12m	NR01 D-a SX03	89	870914	-1or -2期	針葉樹	板目材	54.0/9.5/1.4	
4883	穿孔板(建築部材)	62F		NR01 D-a SX03		870819	-1or -2期	ヒノキ	板目材	63.5/9.9/1.6	
4941	穿孔板	62F		NR01 D-b-c	94	870817	-1or -1期	ヒノキ	板目材	48.6/12.0/2.1	
4932	板	62F	I11q	NR01下層		870430	-1or -1期	針葉樹	板目材	58.5/5.8/1.5	
2537	半截丸太	62F	I11q	NR01			-1or -1期	コナラ節	半截材	98.7/10.3/8.0	2530と同一個体
2530	半截丸太	62F	I11q	NR01			-1or -1期	コナラ節	半截材	93.0/10.0/5.5	2537と同一個体
4900	板	62F	I15F	NR01 B-b 確層下粘土	870911	-2期	広葉樹	板目材	63.4/3.8/3.2		
6601	板	62F		NR01 B-b 確層	870914	-2期	針葉樹	板目材	46.0/10.5/3.2		
2983	クサビ?	62F	I12j	NR01 C-b SX03	1	870813	-2期	ヒノキ	板目材	34.1/5.2/3.2	
4924	有挟丸太	62F	I12j	NR01 C-b SX03	3	870813	-2期	針葉樹	芯持材	68.5/7.5R	
4878	有挟丸太	62F	I12j	NR01 C-b SX03	3	870813	-2期	針葉樹	芯持材	93.0/7.7R	
4945	丸太	62F	I12j	NR01 C-b SX03	3(付属品)	870813	-2期	広葉樹	芯持材	86.5/7.5R	
3125	穿孔丸太(柱)	62F		NR01 C-b SX03		870828	-2期	ヒノキ属	芯持材	93.0/10.5R	
6581	有挟板	62F	I13j	NR01 C-b 下部確層	6	870828	-2期	ヒノキ	板目材	60.6/2.5/0.7	
6578	有挟板(機織具?)	62F		NR01 C-c SX03	6	870811	-2期	ヒノキ	板目材	46.0/3.2/1.0	
3172	板	62F		NR01 C-c SX03	15	870811	-2期	針葉樹	板目材	33.0/6.2/1.1	
4943	板	62F		NR01 C-c SX03	17	870811	-2期	針葉樹	板目材	53.0/5.6/0.8	
6580	丸太(面取り)	62F		NR01 C-c SX03	22	870811	-2期	広葉樹	板目材	69.2/9.0R	
4843	有挟板	62F		NR01 C-c SX03	23	870811	-2期	ヒノキ	追紐目材	69.7/9.7/1.9	
2993	板	62F	I12p	NR01 C-c SX03	27(W-16)	870814	-2期	針葉樹	追紐目材	18.7/10.0/1.1	
3138	板	62F	I12p	NR01 C-c SX03	28	870814	-2期	広葉樹	板目材	22.5/2.6/0.9	
3634	板(圭頭)	62F		NR01 C-c SX03	32	870812	-2期	針葉樹	追紐目材	39.0/2.2/0.7	
3005	角棒	62F		NR01 C-c SX03	36	870812	-2期	針葉樹	板目材	14.7/4.0/3.7	
2527	丸太	62F	I13k	NR01 C-c SX03	41		-2期	クリ	芯持材	160.0/12.0/7.5	
4964	有挟穿孔板(建築部材)	62F	I12j	NR01 C-c(C-b-c) SX03 砂層上黒色粘土 ベルト		870916	-2期	モミ属	追紐目材	38.5/16.2/4.2	
2953	板	62F		NR01 C-b-c セクション中砂層上	870917	-2or -1期	広葉樹	板目材	47.5/5.3/3.2		
4867	丸杭(又木)	62F		NR01 C-c	1	870811	-2or -1期	カヤ類似種	芯持材	100.4/8.0R	
4949	壁柱?	62F		NR01 C-c	3	870811	-2or -1期	ヤブタバキ	芯持材	39.0/8.0R	
2970	半截丸太	62F		NR01 C-c	8	870811	-2or -1期	広葉樹	半截材	7.2/7.8/4.0	
4936	丸太	62F		NR01 C-c	20	870811	-2or -1期	コナラ節	丸太材	63.0/13.0R	
2985	板	62F		NR01 C-c	22	870811	-2or -1期	針葉樹	板目材	15.8/4.0/1.8	
4850	丸太	62F		NR01 C-c	22(3-3)	870811	-2or -1期	広葉樹	ミカン割り材(1/4)	108.4/8.3R	
2533	有溝板(建築部材)	62F		NR01 C-c	27		-2or -1期	ヒノキ属	板目材	144.4/14.5/4.3	
2539	穿孔板(建築部材)	62F		NR01 C-c	28		-2or -1期	モミ属	板目材	100.4/16.0/3.4	
3628	クサビ?	62F	I14g	NR01 C-c	28	870902	-2or -1期	アカガシ亜属	板目材	33.0/4.0/1.9	
3652-1	有段穿孔板	62F	I14k	NR01 C-c SX04		870902	-1期	ヒノキ	板目材	6.4/2.7/1.1	
3652-2	突起付板	62F	I14k	NR01 C-c SX04		870902	-1期	アカガシ亜属	板目材	4.2/4.3/1.7	
4938	丸杭	62F		NR01 C-c SX04	4	870825	-1期	針葉樹	芯持材	44.0/6.0R	
3728	丸杭	62F		NR01 C-c SX04	5	870825	-1期	広葉樹	芯持材	77.2/4.3R	
4857	有段板	62F		NR01 C-c SX04	6	870825	-1期	針葉樹	追紐目材	102.0/9.3/1.4	
2917	板	62F		NR01 C-c SX04	7	870825	-1期	広葉樹	板目材	80.0/9.7/2.7	
4939	丸杭	62F		NR01 C-c SX04	8	870825	-1期	広葉樹	芯持材	69.5/5.8R	
3647	穿孔板(建築部材?)	62F		NR01 C-c SX04	10	870825	-1期	ヒノキ	板目材	27.7/18.2/2.7	
2538	板	62F		NR01 C-c SX04	11		-1期	コナラ節	板目材	177.8/7.8/4.6	
6589	丸杭	62F		NR01 C-c SX04	16	870825	-1期	芯持材		48.0/4.5R	
3710	有挟板	62F		NR01 C-c SX04	17	870825	-1期	針葉樹	板目材	22.5/6.1/2.7	
4910	丸杭	62F		NR01 C-c SX04	18	870825	-1期	広葉樹	芯持材	67.0/3.3R	
6588	丸杭	62F		NR01 C-c SX04	20	870825	-1期	芯持材		44.7/4.0R	
6590	丸杭	62F		NR01 C-c SX04	21	870825	-1期	広葉樹	芯持材	51.9/4.2R	
3658	角棒	62F		NR01 C-c SX04	23	870825	-1期	針葉樹	板目材	37.2/2.1/2.7	
3168	有溝板	62F		NR01 C-c SX04	24	870825	-1期	針葉樹	板目材	36.0/5.0/0.8	
4855	板	62F		NR01 C-c SX04	25	870825	-1期	針葉樹	板目材	103.5/6.4/6.0	
6582	角杭	62F		NR01 C-c SX04	25(付属品)	870825	-1期	針葉樹	板目材	38.2/6.2/3.6	
4959	板	62F	I14k	NR01 C-c SX04上層	28	870902	-1期	針葉樹	板目材	81.5/12.0/1.8	
2990	丸棒	62F	I13k	NR01 C-c SX04	29	870904	-1期	針葉樹	芯持材	78.0/2.2R	
4955	有頭棒	62F	I14l	NR01 C-c SX04	30	870904	-1期	広葉樹	芯持材	79.0/7.5R	
5285	穿孔板	62F	I14e	NR01 C-c SX04	31	870904	-1期	ヒノキ	板目材	47.8/6.5/1.0	
3651	有段角棒	62F	I14l	NR01 C-c SX04	32	870904	-1期	針葉樹	板目材	30.5/3.9/3.9	
4851	丸太	62F		NR01 C-c SX04	36	870905	-1期	針葉樹	芯持材	147.6/7.8R	
3117	板	62F		NR01 C-c SX04	37	870905	-1期	クスノキ節	板目材	139.7/6.3/3.2	
3725	丸杭	62F		NR01 C-c SX04		870825	-1期	針葉樹	芯持材	34.3/3.3R	
3730	丸杭	62F		NR01 C-c SX04		870825	-1期	針葉樹	芯持材	32.0/3.0R	
3693	穿孔板	62F	I14k-l	NR01 C-c SX04		870904	-1期	ヒノキ	板目材	22.4/8.5/0.9	
3182	丸杭	62F		NR01 C-c SX04		870905	-1期	広葉樹	芯持材	29.0/4.0R	
3137	クサビ?	62F		NR01 D-a SX04	3		-1期	ヒノキ	板目材	24.0/3.5/3.5	
3001	丸杭	62F		NR01 D-a SX04		870904	-1期	針葉樹	芯持材	34.0/3.0R	
3002	角棒	62F		NR01 D-a SX04		870904	-1期	針葉樹	板目材	27.6/1.8/1.4	
3508	曲物前板	62F	I12o	NR01 D-b-c SX04		870807	-1期	ヒノキ属	板目材		
2992	杓子?	62F	I13o	NR01 D-c	4	870811	-1期	ヒノキ	板目材	19.7/5.8/0.5	
3514	曲物底板(側板付)	62F	I13o	NR01 D-c	5	870811	-1期	ヒノキ属類似種	板目材	7.8R/0.7	
2947	穿孔板(機織具?)	62F	I13p	NR01 D-c	6	870811	-1期	ヒノキ	板目材	23.0/3.0/0.8	
4942	折敷底板	62F	I13o	NR01 D-c SX04	7	870902	-1期	ヒノキ	板目材	54.9/12.8/0.9	
3676	板	62F	I13o	NR01 D-c SX04	8	870904	-1期	コクヤマキ	板目材	34.8/7.0/0.7	
3619	加工板	62F	I12r	NR01 D-c		870807	-1期	カツラ	板目材	18.5/3.5/1.0	
3143	穿孔板(建築部材?)	62F	I12p	NR01 D-d SX04	1	870812	-1期	ヒノキ	板目材	22.0/10.9/2.5	
4929	板(尖板?)	62F	I12r	NR01 D-d SX04	3-4	870812	-1期	針葉樹	板目材	75.5/8.5/2.6	
4861	有挟丸太	62F	I12r	NR01 D-d SX04	7	870812	-1期	針葉樹	板目材	59.5/8.0R	
6583	丸杭	62F	I12r	NR01 D-d SX04	1-6(付属品)	870812	-1期	広葉樹	芯持材	71.7/4.0R	
3670	板	62F	I11q	NR01 D-d 2層	4	870806	-1期	針葉樹	板目材	31.0/5.9/1.4	
4917	板	62F	I11q	NR01 D-d 2層	4	870806	-1期	針葉樹	板目材	74.8/7.9/1.9	
6623	丸杭	62F	I11q	NR01 D-d 2層	9	870806	-1期	広葉樹	板目材	48.9/6.5/4.4	
2535	板	62F	I11q	NR01 D-d 2層	10		-1期	コナラ節	板目材	85.5/8.7/3.4	
3128	半截丸太	62F	I11p	NR01 D-d 2層	10	870806	-1期	工ノキ属	半截材	75.0/25.0/12.5	3132と同一個体?
3132	半截丸太	62F	I11p	NR01 D-d 2層	10	870806	-1期	工ノキ属	半截材	15.5/20.0/15.0	3128と同一個体?
3153	丸杭	62F	I14g	NR01上層 D-d 2層		870427	-1期	針葉樹	芯持材	20.2/4.2R	
2935	有挟板	62F		NR01 D-2層	1	870806	-1期	針葉樹	板目材	14.8/3.4/0.8	
2911	丸杭	62F	I11q	NR01 D-2層		870804	-1期	広葉樹	芯持材	31.5/7.1R	
3664	折敷底板	62F		NR01 B-a-b 確層上		870905	-2期	ヒノキ	板目材	40.0/6.0/1.0	
2938	穿孔板	62F		NR01 B-a-b 確層上		870905	-2期	ヒノキ	板目材	14.5/1.4/0.2	
2948	有段丸棒	62F		NR01 B-a-b 確層上		870905	-2期	針葉樹	半截材	7.5/3.0R	
3148	曲物底板	62F	I14e	NR01 B-b 確層上	7	870904	-2期	ヒノキ	板目材	15.0/2.6/0.6	
4954	穿孔丸太(建築部材)	62F	I14g	NR01 B-b 確層上		870905	-2期	ヒノキ	芯持材	96.8/6.5R	
3175	丸杭	62F	I14g	NR01 B-c SX03上層	2	870905	-2期	広葉樹</			